第３章　白川町住生活総合計画の方針と目標

３－１．白川町住生活総合計画の基本理念と目標

（１）基本理念

白川町に住んで良かったと思えるまちづくり

本町においては、人口減少と少子高齢化が進行していますが、移住促進テレビドラマ「岐阜にイジュー！」の放送による人気の高まりなど、移住・定住環境の整備によるまちの発展が期待できます。また、「白川町第５次総合計画」及び「白川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」においては、目指すべき方向性の中でまちで暮らす住民が住み良く安心安全に暮らせることをまちづくりの基本的な目標としています。

本計画は、こうした総合的なまちづくりにおける住生活環境分野の施策を受け持つことから、「白川町に住んで良かったと思えるまちづくり」を住宅施策の基本理念とします。

さらに、この基本理念のもと、住み慣れた住宅や地域で快適に暮らし続けることができるよう

目標１　子育て世帯・高齢世帯の満足度の向上
目標２　空き家対策の推進
目標３　若者の移住・定住の促進
目標４　安心して暮らせる町営住宅の供給
目標５　コンパクトなまちづくりの推進

以上を目標と定め、施策の展開を図ります。
なお、本施策は、白川町第６次総合計画に反映していきます。

（２）目標とその達成のために必要な基本的な施策

目標１　子育て世帯・高齢世帯の満足度の向上

本町の人口は、昭和 30 年代以降減少が続いており、2040 年には 5,099 人まで減少すると予想されています。また、老齢人口の割合は 53.6%に達すると推計されています。住宅需要については、家族構成の変化や結婚、収入の変化など生涯を通じて様々な住宅需要が生じます。このような人口減少と多様な住宅需要に対応した住宅セーフティネットとしての公営住宅の整備や地域交流型高齢者向け住宅の整備など、誰もが白川町に住み続けられる住宅の整備を推進します。公共交通網については、子育て世帯・高齢世帯の満足度の向上にも大きく寄与し町民の移動を支える重要な手段であることから、さらに公共交通網を充実させていく必要があります。また、これら各種制度や支援施策について適切に利用が図られるよう町民への周知を図ります。

【基本的な施策】

○持家住宅のリフォーム支援（子育て世帯）

本町の住宅の所有形態は持家の割合が極めて高く 93%となっています。子育てにおける快適性の向上、住宅内での子どもの安全性の向上は、子育て世帯の住環境の満足度を向上させていくうえで重要な施策と考えられます。今回のアンケート調査の結果からも、「子育て世帯に最も効果的な施策」の問いに対し、「公共交通の充実」に次いで「子育て世帯や、子供が生活しやすいように家の改修をする工事への助成」となっています。住み慣れた地域で住み続けられるように、子育てステージの変化に対応した住宅のリフォーム支援について推進します。

○持家住宅のリフォーム支援（高齢者が居住の世帯）

2040 年には本町の老齢人口の割合は 53.6%に達すると推計されていますが、高齢者単身、高齢者のみの世帯の割合は今後も高いものと予測されます。高齢者や高齢者のいる家族が自らの努力により将来にわたって安心して住み続けられるよう、高齢者世帯の持家住宅リフォーム支援について検討します。今回のアンケート調査の結果からも、「今後必要な住環境施策」の問いに対し、「高齢者がなるべく自宅で過ごせるようにする」に次いで「長く住めるようリフォームへの補助」となっています。また、地域で見守りが出来る仕組みの拡充を求める割合も高く、ソフト面からのサポートも同時に求める傾向にあります。高齢者が住み慣れた地域で住み続けられるよう、財政状況を把握しながら、必要な支援について推進します。

○地域交流型高齢者向け住宅及び町営住宅の整備

高齢者のひとり暮らしの不安とその対応策を求める住民の声は少なくありません。ひとり暮らしの高齢者が安心して生活することができる住宅環境を提供するため、高齢者の需要に応じた地域交流型高齢者向け住宅の整備を推進します。整備にあたっては白川町社会福祉協議会が運営主体となり、三川地区の白川町福祉センター周辺での整備を推進します。また、この地区には町営住宅三川団地がありますが、生活環境の利便性から人気が高く部屋数が不足している状況です。敷地の有効利用の観点からも、１階部分を地域交流型高齢者向け住宅、２～３階部分を町営住宅として検討を進めます。

地域交流型高齢者向け住宅の整備については、地域バランスに配慮する必要もありますが、当地区の利用状況や財政状況の把握により今後の検討課題とします。

○町営住宅子育て家賃減免制度及び子育て支援家賃補助金の継続

町営住宅子育て家賃減免制度及び子育て支援家賃補助金については、少子高齢化対策に資すること及び子育て世帯が町外へ転出しないよう町内定住促進を目的に制定した制度です。また、子育て支援家賃補助金の対象となる民間賃貸住宅については、多様化する居住ニーズを満たす住宅確保のため、町営住宅を補完する施設としての位置付けを行っています。今回のアンケート調査の結果は、５割近くの方が「制度を継続

すべき」との回答から、町民の子育て世帯へのサポートの意識の高さが伺えます。今後も目的達成のため制度を継続します。

○木造住宅無料耐震診断・耐震補強工事助成の普及啓発

本町の持家の割合は極めて高く 93%となっていますが、建築した時期は半数近くが昭和 55 年以前であり、築 40 年近い若しくは 40 年以上の住宅が大半を占めていることがアンケート調査から得られています。また、リフォーム済の住宅も一定以上あると思われますが、多くの住宅は老朽化が懸念されています。最低限の安全性を確保する必要性から、木造住宅無料耐震診断・耐震補強工事助成に対する普及啓発を推進します。

○子育て世帯・高齢世帯に優しい住宅づくり

今後も少子高齢化が進行する中で、町内で安心して住み続けられるため、高齢者をはじめ誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるために、バリアフリー化をはじめユニバーサルデザインの普及啓発を促進します。

【現在実施している主な事業】

○白川町子育てあんしん住宅リフォーム支援事業
○木造住宅無料耐震診断・耐震補強工事助成
○町営住宅子育て家賃減免制度
○民間賃貸住宅子育て支援家賃補助金　など

目標２　空き家対策の推進

前述したとおり、本町の人口は減少が続いており、2040 年には 5,099 人まで減少すると予想されています。また、老齢人口の割合は 53.6%に達すると推計されています。人口減少と相まって空き家の増加が危惧されていますが、特定空き家とならないよう対策を講じるとともに、空き家を活用した移住・定住促進、地域コミュニティーの維持及び住環境の整備を推進します。

※特定空き家…空き家対策特別措置法により、そのまま放置すると著しく保安上危険または衛生上有害となる恐れのある状態、適切に管理されていないため著しく景観を損なっている状態にあると認められる空き家

【基本的な施策】

○白川町空家等対策計画の策定

本計画策定に当たり、空家等対策の推進に関する特別措置法第 6 条の規定に基づく、白川町空家等対策計画を策定します。その内容詳細については第 5 章で記述します。

目標３　若者の移住・定住の促進

まちの活性化を維持していくためには、それを支える人の存在が必要です。若者が引き続き町内に住み続け、Ｉターンや Ｕターン等の転入を促進するためには、空き家を活用した移住・定住対策や賃貸住宅需要への対応など多様な選択肢を準備しておくことも必要となります。就労場所の情報提供とともに、安心して住み続けられる移住・定住促進を目的とした町営住宅の建設について検討を進めます。また、有利な起債の活用や指定管理者制度の導入を図るなど、効率的な運営・維持管理についても合わせて検討し、これら各種制度や施策について適切に利用が図られるよう町民への周知を図ります。

【基本的な施策】

○転出者の抑制と転入者人口の増加のための町営住宅の建設について

町営住宅三川団地については、生活環境の利便性から人気が高く、部屋数が不足している状況です。当三川団地を補完する施設として、また、転出者の抑制と転入者人口の増加のため町営住宅の建設について検討を進めます。敷地の有効利用の観点から、白川町福祉センター周辺で整備を検討している地域交流型高齢者向け住宅と合わせて検討し、１階部分を地域交流型高齢者向け住宅、２～３階部分を町営住宅として検討を進めます。

○持家需要に対応した定住促進住宅の建設について

今回のアンケート調査の結果より、空き家等の活用に関連する質問項目からも、町民が若者の移住・定住に期待していることが伺えます。特に少子高齢化の中で、子育て世代の移住・定住への期待感はさらに高まっています。多様な選択肢を準備する必要性から、賃貸住宅需要と平行して持家需要に対応する施策も必要です。施策として、優良宅地の供給や、入居後一定期間を経過すると土地と建物を譲渡する仕組みづくりなど、白川町に定住を希望される方を対象とした定住促進住宅について検討します。また、国道４１号上麻生防災工事の際に発生する残土を有効活用することも合わせて検討します。

若者の移住・定住は、住宅だけの問題に限らず、仕事や地域コミュニティとの付き合い方など、多様な側面を有しており、周辺住民の感情に配慮した施策にすることが必要です。

【現在実施している主な事業】

○白川町住宅取得等支援事業補助金
○小規模企業者の支援及び誘致
○起業支援奨励金支給事業
○ふるさと就業情報提供事業
○移住交流サポートセンターの運営

○地域人材のふるさと定着推進事業
○農園付きコテージの活用
○空き家バンクと移住・定住者用住宅の整備　など

目標４　安心して暮らせる町営住宅の供給

所得の変化や高齢化、核家族化等様々な状況の中で、町内で安心して住み続けるための住宅セーフティネットの中核として町営住宅を適切に確保するために施策を進めます。老朽化した町営住宅について計画的な建替えや大規模修繕及び設備等の改修を図り、既存町営住宅の住環境の維持を図ります。

【基本的な施策】
○白川町町営住宅長寿命化計画の策定
本計画策定に当たり、白川町町営住宅長寿命化計画を策定します。その内容詳細については第４章で記述します。

目標５　コンパクトなまちづくりの推進

今回のアンケート調査より、本町における「コンパクトなまちづくり」において、町民は、移動（交通：バス路線）や学校、病院等を住宅近隣にあることを求めていることから、潜在的に「コンパクトなまちづくり」へのニーズがあることがわかります。
しかし一方で、町民は、現在の住宅に住み続けたいとする傾向が強く、物理的な居住地の集約化は多くの課題をはらんでいるとの結果が得られています。本町としてこの「コンパクトなまちづくり」を考えた場合、町民の殆どの世帯が先祖代々受け継いできた土地・家屋に住み続け、地域コミュニティも確立している状況にある中で、様々な行政機能や人口を一箇所に集中させるような施策を展開していくことには課題もあると考えています。
旧村単位の各地区において、中心となる生活拠点の周辺で生活ができるよう、セーフティネットとしての町営住宅整備を行うなど、地域コミュニティを維持しつつ、「公共交通の充実」、「ネットワーク通信の充実」、「各地区公民館の充実」、「行政サービスの充実」といった各施策の充実と効率化を推進し、白川町に適合したコンパクトなまちづくりの構築を検討します。

【基本的な施策】
○地域コミュニティの活性化
人口減少が進む地域においては、地域活力の低下や住民相互の交流・つながりの希薄化などが不安視されています。多様な世帯や世代が地域で共に安心して暮らすこと

ができるまちづくりに向け、地域コミュニティを活性化し、白川町としての魅力・価値向上を目指します。

公共交通の有効活用を促進し、子育てしやすい環境づくりや高齢者等が安心して地域で暮らせるコミュニティの形成・充実を促進します。

○防犯・防災機能の向上

町民が安心して住生活を送るためには、住宅の品質や性能に加え、地域における安全安心な居住環境の形成や豊かなコミュニティの維持・向上が重要となります。

自然災害に係るハザードマップの活用など、居住地における災害に関する情報の周知・啓発等を促進するほか、町民、教育機関、警察など関係機関との連携による地域の防犯体制の向上等に係る取組を実施し、地域の防犯力の向上を図ります。

白川町の特徴的な地理的条件を活かし、地震、水害、土砂災害などの自然災害に対する防災対策のほか、防犯面への配慮など住生活の安全安心を確保する住環境の整備を図ります。

【現在実施している主な事業】

○公共交通対策の推進
○高校生鉄道通学費補助事業
○小さな拠点形成の推進
○無料公衆無線 LAN（Wi-Fi）の整備
○ICT の活用による教育の質の向上　など

３－２．白川町の住宅・住環境施策の方針

（１）住生活に関するアンケート調査

町民の現在の住まいや将来の住環境に対する意識を客観的な数値として把握し、そこからみえる課題・対策を本計画に反映することを目的に、アンケート調査を実施しました。

1）調査概要

対象：自治会加入全世帯＝2,841 世帯 5,682 部（各世帯 2 部配付）

調査方法：広報誌と共にアンケート調査票を配付・調査員による回収（無記名）

世帯主を対象とした調査ですが、幅広い世代から回答を得るため、2 世帯以上で生活している世帯を考慮し､2 部目の提出は任意によるものとしました。

調査時期：平成 30 年 2 月 1 日～2 月 20 日

回収数及び回収率

地区名	世帯数	配付部数	封筒回収部数（＝世帯数）	封筒回収率	回収部数	回収率
白川口	292	584	233	79.8%	262	44.9%
泉野	138	276	126	91.3%	135	48.9%
中野	126	252	107	84.9%	121	48.0%
大山	180	360	166	92.2%	167	46.4%
坂ノ東	265	530	246	92.8%	313	59.1%
三川	282	564	240	85.1%	286	50.7%
赤河	266	532	198	74.4%	257	48.3%
切井	260	520	248	95.4%	295	56.7%
東黒川	154	308	147	95.5%	176	57.1%
西黒川	148	296	140	94.6%	170	57.4%
南黒川	172	344	161	93.6%	189	54.9%
北黒川	181	362	158	87.3%	193	53.3%
上佐見	221	442	195	88.2%	227	51.4%
下佐見	156	312	135	86.5%	165	52.9%
無回答					53	
合計	**2,841**	**5,682**	**2,500**	**88.0%**	**3009**	**53.0%**

・2,500 世帯から 3,009 部の回答を得ることとなりました。回答率は、世帯数では 2,500／2,841 の 88.0%、配布部数では、3,009／5,682 の 53.0%です。2 部目の提出は任意としていることから、白川町全域の世帯の相当数からアンケートの回答を得ることが

できたといえます。

2）アンケート調査の項目と結果

項目	内容
１．現在の住まいと回答者属性	居住地区、所有形態、居住面積、居住部屋数、建築年数、世帯員数、所有自家用車数、年齢、性別、居住年数、住まいへの満足度、周辺環境の満足度、今後の居住の意向
２．空き家について	空き家となる可能性、活用の意向、活用の方法、空き家対策
３．町営住宅施策について	現在の町営住宅状況、必要となる新しい町営住宅
４．今後の住環境施策について	必要となる住環境施策、子育て世帯に適した住環境、高齢世帯に適した住環境、現在の住宅支援施策

住宅・住環境施策の方向性を定めるに当たり、アンケート調査結果から町の課題に関係する部分について、以下に整理します。なお、アンケート調査の結果詳細については、資料編に掲載しています。

1.住宅事情

１．現在住んでいる家についての質問です。

１－１．現在の住宅の状況について、各質問であてはまるもの１つに○をつけてください。

② お住まいの住宅の所有形態を教えてください。

項目	回答数	%
全体	**3,009**	**100.0%**
持家	2,799	93.0%
町営住宅	101	3.4%
民間アパート	17	0.6%
借家	71	2.4%
無回答	21	0.7%

・国勢調査と同じく、90%以上が持家と回答しています。

・平成 30 年 2 月 1 日現在での町営住宅入居世帯が 121 世帯であり、町営住宅入居者の回答数が 101 人であるため、現在持家を持っていない世帯も調査への関心が高いことがうかがえます。

2.回答者の年齢

１－２．回答する方の年齢、居住年数、現在住んでいる家の満足度について伺います。

① 回答者の年齢を教えてください。

項目	回答数	%
全体	**3,009**	**100.0%**
20 代	72	2.4%
30 代	152	5.1%
40 代	306	10.2%
50 代	520	17.3%
60 代	804	26.7%
70 代	587	19.5%
80 歳以上	496	16.5%
無回答	72	2.4%

・回答者の年齢は 60 代が 26.7%と最も多く、次いで 70 代、50 代となっています。全回答者の内 60 代以上の割合は 62.7%となりました。

住宅の所有形態 × 年齢

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	無回答	合計
持家	49	107	262	479	788	566	482	66	2,799
町営住宅	16	24	21	26	6	5	3	0	101
民間アパート	4	4	4	3	1	1	0	0	17
借家	2	15	18	9	9	14	4	0	71
無回答	1	2	1	3	0	1	7	6	21
合 計	72	152	306	520	804	587	496	72	3,009

・住宅の所有形態別に回答者の年齢を比較すると、主に子育て世代となる 20 代から 50 代の割合が、持家では 32.0%（897/2799）に対し、町営住宅・民間アパート・借家では 77.2%（146/189）となります。

・60 代以上の割合は持家が 67.2%（1836/2733）、町営住宅が 13.9%（14/101）、民間アパートが 11.8%（2/17）、借家が 38.1%（8/21）となります。

・20 代から 50 代の中では、町営住宅・民間アパート・借家に住んでいる人が 13.9%（146/1050）となり、高齢世帯の 2.3%（43/1887）を上回っています。

3.今後の居住の意向

・「現在の家に住み続けたいか」という設問において、「はい」は 64.4%、「いいえ」は 7.9%となりました。

１－４－１．現在のお住まいの家に今後も住み続けたいと思いますか？

項目	回答数	%
全体	**3,009**	**100.0%**
はい	1,938	64.4%
いいえ	237	7.9%
わからない	803	26.7%
無回答	31	1.0%

住宅の所有形態 × 今後も住み続けたいか

	はい	いいえ	わからない	無回答	合計
持家	1,870	181	722	26	2,799
町営住宅	25	29	45	2	101
民間アパート	1	9	7	0	17
借家	34	12	24	1	71
無回答	8	6	5	2	21
合 計	1,938	237	803	31	3,009

・住宅の所有形態別に比較すると、持家では「いいえ」・「わからない」と回答した人は「はい」と回答した人よりも少なくなっていますが、町営住宅・民間アパートでは「いいえ」・「わからない」が大きく上回っています。

年齢 × 今後も住み続けたいか

	はい	いいえ	わからない	無回答	合計
20代	22	12	37	1	72
30代	77	22	52	1	152
40代	162	38	104	2	306
50代	295	56	167	2	520
60代	540	56	202	6	804
70代	423	32	126	6	587
80歳以上	372	17	98	9	496
無回答	47	4	17	4	72
合 計	1,938	237	803	31	3,009

・年齢別に比較すると、年齢が高いほど「はい」の割合が多く、若くなるほど「いいえ」・「わからない」の割合が増えていきます。

4.今後の住環境施策

① 住み続けたいと思う１番の理由にあてはまる番号に○をつけてください。

項目	回答数	%
全体	**1,938**	**100.0%**
家に愛着がある	803	41.4%
畑などがある	258	13.3%
近所付き合いが良い	135	7.0%
子育て環境が良い	20	1.0%
福祉が整っている	6	0.3%
通勤に便利	35	1.8%
近くに親族、友人がいる	98	5.1%
その他	136	7.0%
無回答	447	23.1%

・住み続けたい理由の中では「家に愛着がある」が 41.4%で最も多くなっています。

１－５．今の家から引っ越したい、または引っ越しする予定がある方は、次の質問にお答えください。

① 今の家から引っ越したい、または引越しする予定の１番の理由にあてはまるものを選び、番号に○をつけて下さい。

項目	回答数	%
全体	**237**	**100.0%**
地域に愛着が無い	13	5.5%
家賃や賃借料に不満がある	4	1.7%
建物の老朽化	28	11.8%
生活に不便なため	64	27.0%
子育て環境の変化	6	2.5%
仕事の都合・転職	7	3.0%
車の運転ができなくなったため	1	0.4%
自分の健康上の理由	8	3.4%
親・家族の介護のため	1	0.4%
別に暮らす家族と同居するため	6	2.5%
その他	16	6.8%
無回答	83	35.0%

・引っ越したい理由では「生活に不便なため」が 27.0%と多くなりましたが、最も多い回答は「無回答」の 35.0%となりました。

② 引越しする場合、新しい住居先として希望するもの１つに○をつけて下さい。

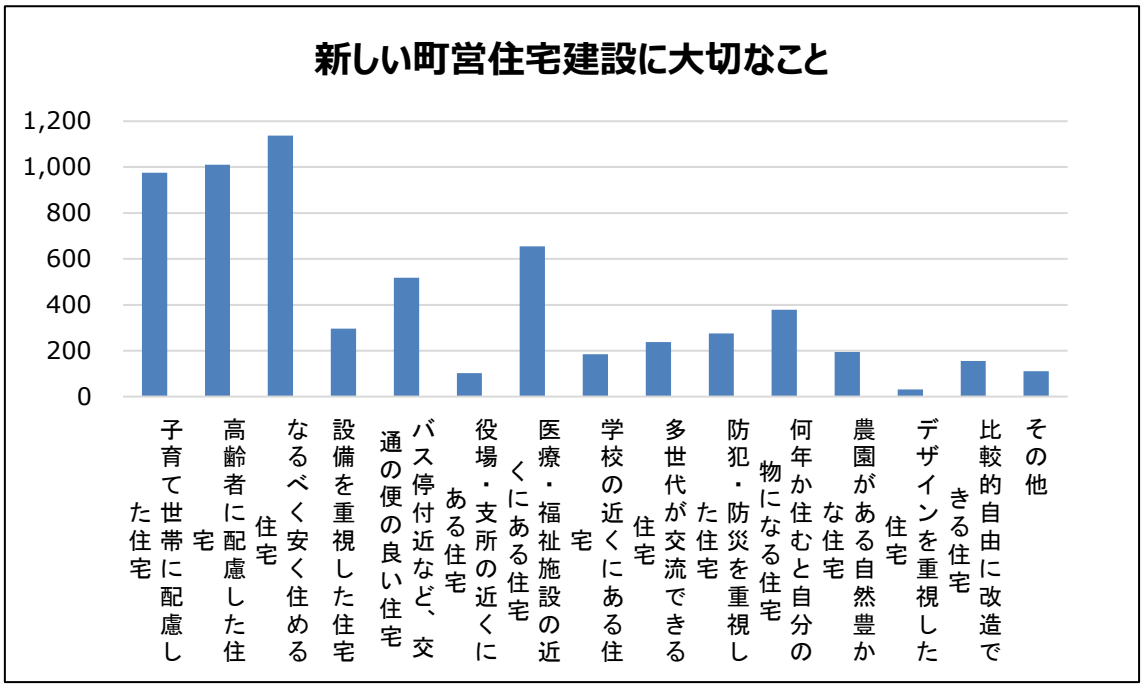
項目	回答数	%
全体	**237**	**100.0%**
新築（町内）	12	5.1%
新築（町外）	39	16.5%
借家（町内）	4	1.7%
借家（町外）	11	4.6%
町営住宅	5	2.1%
町内の民間アパート	0	0.0%
町外の公営住宅	8	3.4%
町外のアパート	17	7.2%
中古住宅（町内）	2	0.8%
中古住宅（町外）	15	6.3%
介護施設	1	0.4%
高齢者専用住宅	10	4.2%
未定	41	17.3%
無回答	72	30.4%

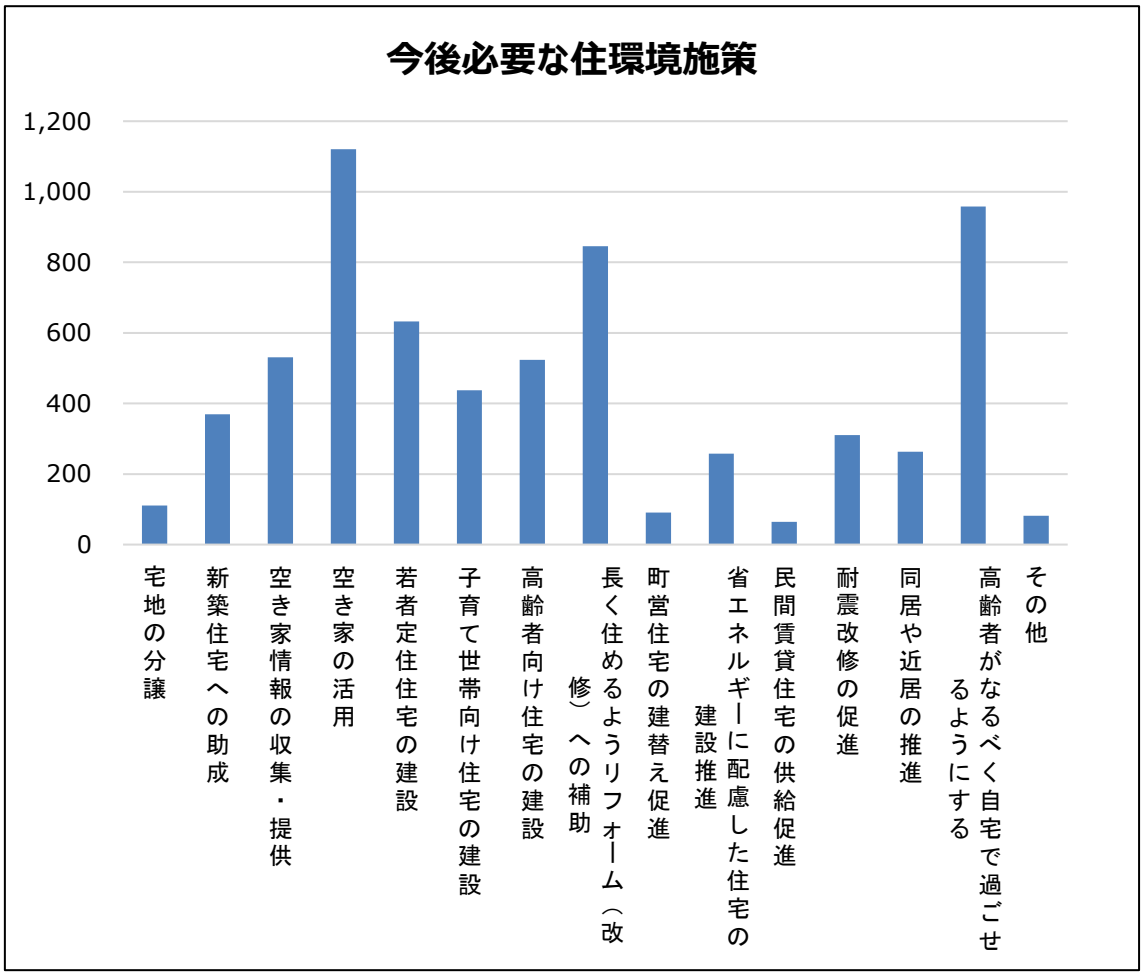
・新しい住居先には「町外」を考えている人が 38.0%となりましたが、ここでも「無回答」には 30.4%の回答数がありました。

３－３．新しい町営住宅を建設するなら、どのようなことが大切だと思いますか？大切だと思うこと３つに○をつけてください。

４－１．白川町では、今後どのような住環境施策が必要になると思いますか？そう思うものを３つに○をつけてください。

・新しい町営住宅に対しては、「なるべく安く住める住宅」の次に「高齢者に配慮した住宅」と「子育て世帯に配慮した住宅」への関心が高いことがわかります。
・今後必要な住環境施策に対しては、「空き家の活用」と答えた人が 17.0%と最も多くなりました。
・「高齢者がなるべく自宅で過ごせるようにする」や「長く住めるようリフォームへの補助」への回答も多く、現状を活かした施策への関心が高いこともわかります。


新しい町営住宅建設に大切なこと
1,200
1,000
800
600
400
200
0
子育て世帯に配慮した住宅
高齢者に配慮した住宅
なるべく安く住める住宅
設備を重視した住宅
バス停付近など、交通の便の良い住宅
役場・支所の近くにある住宅
医療・福祉施設の近くにある住宅
学校の近くにある住宅
多世代が交流できる住宅
防犯・防災を重視した住宅
何年か住むと自分の物になる住宅
農園がある自然豊かな住宅
デザインを重視した住宅
比較的自由に改造できる住宅
その他


今後必要な住環境施策
1,200
1,000
800
600
400
200
0
宅地の分譲
新築住宅への助成
空き家情報の収集・提供
空き家の活用
若者定住住宅の建設
子育て世帯向け住宅の建設
高齢者向け住宅の建設
長く住めるようリフォーム（改修）への補助
町営住宅の建替え促進
省エネルギーに配慮した住宅の建設推進
民間賃貸住宅の供給促進
耐震改修の促進
同居や近居の推進
高齢者がなるべく自宅で過ごせるようにする
その他

（２）調査結果から見た住宅・住環境施策の方針

今回のアンケート調査により、子育て世帯及び高齢者世帯の満足度の向上、空き家の活用が、住民にとって比較的関心が高い課題であり、人口流出を少なくするためにも重要な課題であることが客観的な数値と共に確認することができました。また、これまでの住生活施策の課題を反映させ本計画を策定するに当たり、今後の住宅・住環境施策の重点課題を①「子育て世帯」、②「高齢者世帯」、③「空き家」、④「若者の移住・定住」、⑤「町営住宅」、⑥「コンパクトなまちづくり」に定め、施策の検討を行うこととします。

アンケート調査により、「現在の家に住み続けたいか」という設問において「はい」は 64.4%、「いいえ」は 7.9%となりました。現在の家に住み続けたい理由の中では「家に愛着がある」が最も多くなっています。この回答は「想い」という不安定なものではありますが、白川町まち・ひと・しごと総合戦略の「しらかわで　あんきに子育て・あんきに暮らす」が示すように、施策を講じる上で重要であると捉えたい「想い」です。「現在の家に住み続けたいか」という問いに「わからない」と回答した 26.7%の人が「はい」へと変化するような施策を検討していくことが必要であると考えられます。

また、新しい住居先で「町外」を考えている人が多い結果となっており、現在の家から引っ越すのであれば町外での居住を考えている人が多く、人口流出の大きな要因といえます。しかし一方で、新しい住居先の希望、引っ越したい理由の中で共に「無回答」が最も多い回答となっています。このことは住環境の変化次第では「住み続けたい」という想いに変化する可能性も秘めていると考えられます。人口流出を抑えるためには、本計画の策定による住宅・住環境施策の方針は重要な意味を持つこととなるといえます。

そして、今後必要な住環境施策に対して「空き家の活用」と答えた回答者が最も多いことや、「高齢者がなるべく自宅で過ごせるようにする」や「長く住めるようリフォームへの補助」などの現状を活かした施策への関心が高いことがうかがえることから、人口流出を抑えるためには、町外からの移住者を受け入れる施策と共に、今の町民がこの先も長く白川町に住み続けたいと思える施策が必要であるといえます。

第２章で記述した通り、岐阜県住生活基本計画の目標１には「子育て世帯や高齢者世帯等の生活に適した住まいづくりの推進」と示されています。また、白川町第５次総合計画では、まちづくりの主要課題として「１．少子・高齢化の進行と人口減少」が挙げられ、「まちの『宝』である子どもがたくさん生まれ、安心して子育てができ、高齢者が元気で生きがいを持って暮らせるまちづくりが求められている」とあります。

さらに、白川町まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標には「４しらかわで　あんきに子育て　あんきに暮らす」が挙げられ、基本方針として「子どもや高齢者、障がい者など地域で生活を営むあらゆる人が安心して生活できる環境づくりをソフト、ハード両面で進めていきます」と示されています。

地方自治体の財政の効率化に資する考え方の中に「コンパクトシティ」化という考え方があります。町民の殆どの世帯が持家であり、代々受け継いできた愛着のある家や地域に住み続け、地域コミュニティが確立している状況下にある本町にとって、様々

な行政機能や人口を一箇所に集中させるような「コンパクトシティ」化の施策を展開していくことは馴染まないと考えられます。

しかしながら、今回の調査において白川町に住みたくない理由の多くが「生活に不便なため」となっており、「あらゆる人が安心して生活できる環境づくりをソフト、ハード両面で進めて」いくためには、施策の内容によっては町全体を捉えて効率的に進めていく必要があります。町内各地区、旧村単位を主体に考えられるものを見極め、地域コミュニティが崩壊しないような多極ネットワーク型のコンパクト化を目指し検討していく必要もあると考えられます。

（３）調査結果の詳細分析

本計画の方針を定めるに当たり、今後の住宅・住環境施策の重点課題となる前述の６つの視点において、今回のアンケート結果の詳細分析を行いました。

①「子育て世帯」

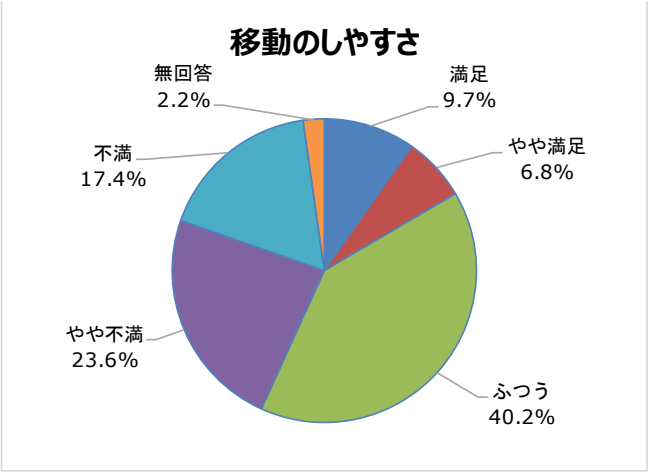
「子育て世帯」に関連するアンケート項目の集計について、「移動」、「買い物」、「医療」、「教育・学校」など子育てに関連するキーワードを踏まえて、アンケート結果を集約しました。

「１－３．周辺の住環境の満足度に関する項目についての質問です。

①出かける際の移動のしやすさについてどう思いますか？」

傾向：「不満・やや不満」が、「満足・やや満足」の数値（16.6%）を大きく超えて 41.0%となりました。ただし、「ふつう」と回答した割合が 40.2%と高く、現状に特段不満を持っていない層が多くを占める結果となりました。

項目	回答数	%
全体	**3,009**	**100.0%**
満足	293	9.7%
やや満足	205	6.8%
ふつう	1,211	40.2%
やや不満	709	23.6%
不満	524	17.4%
無回答	67	2.2%



【クロス集計　年齢×移動のしやすさ】

年代別と移動のしやすさを見ると、主に子育て世代となる 20 代から 40 代が「不満・やや不満」の割合が高くなる傾向にあります。20 代は、55.6%（40／72）、30 代は、48.7%（74／152）、40 代は、53.3%（163／306）となりました。60 代から 80 代以上については、4 割から 3 割ほどと子育て世代に比べて比較的低い傾向にあり、それぞれの年代の行動範囲に関連した傾向といえます。

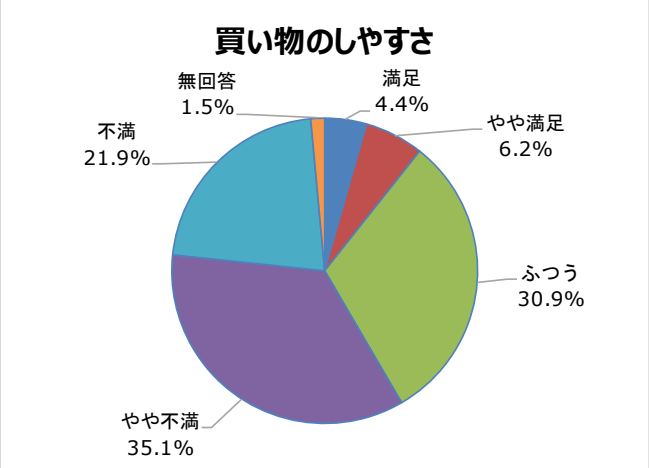
年齢 × 移動のしやすさ

	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	無回答	合計	満足･やや満足	普通	不満＋やや不満
20代	7	5	19	19	21	1	72	16.7%	26.4%	55.6%
30代	10	9	58	45	29	1	152	12.5%	38.2%	48.7%
40代	17	19	105	97	66	2	306	11.8%	34.3%	53.3%
50代	43	19	189	139	124	6	520	11.9%	36.3%	50.6%
60代	63	56	332	198	149	6	804	14.8%	41.3%	43.2%
70代	83	53	273	107	57	14	587	23.2%	46.5%	27.9%
80歳以上	65	42	205	91	65	28	496	21.6%	41.3%	31.5%
無回答	5	2	30	13	13	9	72	9.7%	41.7%	36.1%
合　計	293	205	1,211	709	524	67	3,009	16.6%	40.2%	41.0%

「１－３．周辺の住環境の満足度に関する項目についての質問です。
③買い物のしやすさについてどう思いますか？」

傾向：「不満・やや不満」が、「満足・やや満足」の数値（10.7%）を大きく超えて 56.9%であり、半数以上の回答者が現在の買い物の環境に不満を抱えていることがわかりました。ただし、「ふつう」と回答した割合が 30.9%と高く、現状に特段不満を持っていない層が約三分の一を占める結果となりました。

項目	回答数	%
全体	**3,009**	**100.0%**
満足	133	4.4%
やや満足	188	6.2%
ふつう	931	30.9%
やや不満	1,055	35.1%
不満	658	21.9%
無回答	44	1.5%

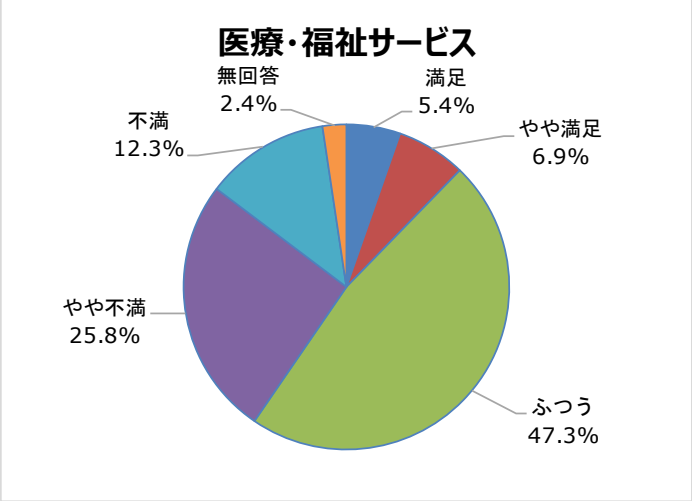


【クロス集計　住んでいる地区×買い物のしやすさ】

「三川地区」在住者の回答が、買い物のしやすさに対して、他地区に比べ最も多く「満足・やや満足」と回答（82／286）しており、地区の買い物環境の違いが明確な意識の差として現れたといえます。

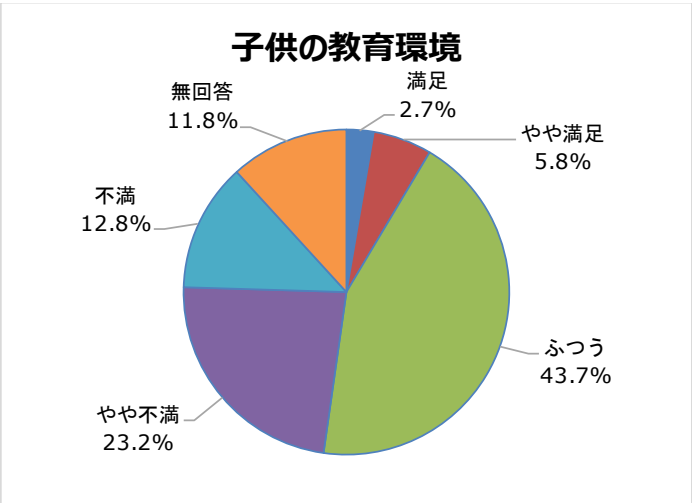
「１－３．周辺の住環境の満足度に関する項目についての質問です。
④医療・福祉サービスの利用のしやすさについてどう思いますか？」
傾向：「不満・やや不満」が、「満足・やや満足」の数値（12.3%）を大きく超えて 38.1%となりました。一方で、「ふつう」と回答した割合が 47.3%と高く、現状に特段不満を持っていない層が半数近くの割合を占める結果となりました。

項目	回答数	%
全体	**3,009**	**100.0%**
満足	161	5.4%
やや満足	208	6.9%
ふつう	1,423	47.3%
やや不満	775	25.8%
不満	371	12.3%
無回答	71	2.4%



「１－３．周辺の住環境の満足度に関する項目についての質問です。
⑤子供の教育環境についてどう思いますか？」
傾向：「不満・やや不満」が、「満足・やや満足」の数値（8.5%）を大きく超えて 36.0%となりました。一方で、「ふつう」と回答した割合が 43.7%と高く、現状に特段不満を持っていない層が半数近くの割合を占める結果となりました。

項目	回答数	%
全体	**3,009**	**100.0%**
満足	81	2.7%
やや満足	176	5.8%
ふつう	1,315	43.7%
やや不満	699	23.2%
不満	384	12.8%
無回答	354	11.8%



【クロス集計　年齢×子供の教育環境】

主に子育て世代となる年代別で子供の教育環境の回答を見ると、20 代は「満足・やや満足」は 22.2%（16／72）、「ふつう」は 38.9%（28／72）、「不満・やや不満」は 33.3%（24／72）となりました。30 代は、「満足・やや満足」は 13.8%（21／152）、「ふつう」は 48.7%（74／152）、「不満・やや不満」は 37.5%（57／152）となり、40 代は「満足・やや満足」は 14.1%（43／306）、「ふつう」は 37.6%（115／306）、「不満・やや不満」は 47.1%（144／306）となりました。

20 代から 40 代においては、「満足・やや満足」は他の世代と比べ比較的高い割合である一方で、「不満・やや不満」の割合も同様に他の世代と比べ、3 割から半数近い高い割合を示していることから、実際に学校等へ通う子供を持つだろうと思われる世代において、進学も含め不満や不安を持っていることが推測できます。

年齢 × 子供の教育環境

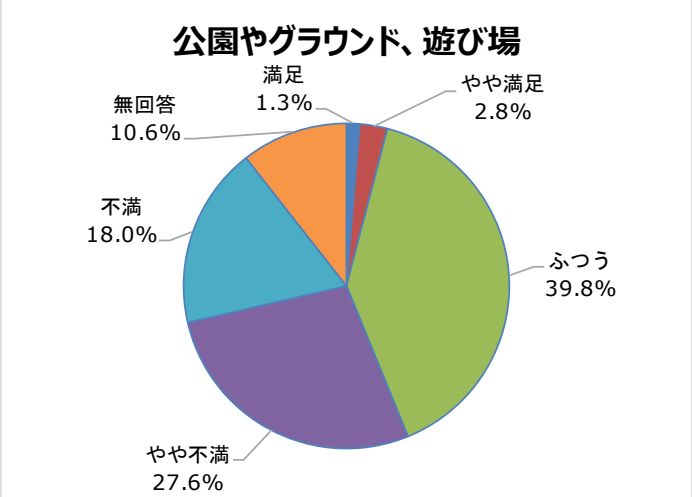
	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	無回答	合計	満足・やや満足	普通	不満＋やや不満
20代	6	10	28	13	11	4	72	22.2%	38.9%	33.3%
30代	6	15	74	35	22	0	152	13.8%	48.7%	37.5%
40代	13	30	115	104	40	4	306	14.1%	37.6%	47.1%
50代	13	31	220	138	105	13	520	8.5%	42.3%	46.7%
60代	14	37	376	221	113	43	804	6.3%	46.8%	41.5%
70代	13	26	278	102	56	112	587	6.6%	47.4%	26.9%
80歳以上	15	25	194	71	35	156	496	8.1%	39.1%	21.4%
無回答	1	2	30	15	2	22	72	4.2%	41.7%	23.6%
合　計	81	176	1,315	699	384	354	3,009	8.5%	43.7%	36.0%

「１－３．周辺の住環境の満足度に関する項目についての質問です。

⑥公園やグラウンド、遊び場についてどう思いますか？」

傾向：「不満・やや不満」が、「満足・やや満足」の数値（4.1%）を 10 倍以上の数値の 45.6%であり、他の質問項目と比べても、公園・グランドといった子供たちが遊ぶ環境に対する不満がとても大きいことが推測されます。

項目	回答数	%
全体	**3,009**	**100.0%**
満足	39	1.3%
やや満足	83	2.8%
ふつう	1,197	39.8%
やや不満	829	27.6%
不満	543	18.0%
無回答	318	10.6%



【クロス集計　年齢×公園やグランド、遊び場】

主に子育て世代となる年代別で子供の教育環境の回答を見ると、30 代と 40 代は、「不満・やや不満」との回答が 60%以上の割合（30 代：65.8%、40 代：61.8%）を示しており、実際に子供を外で遊ばせる環境への不満が大きいと思われ、公園等の環境整備への期待が大きいことが示されていると思われます。

年齢　×　公園やグラウンド、遊び場

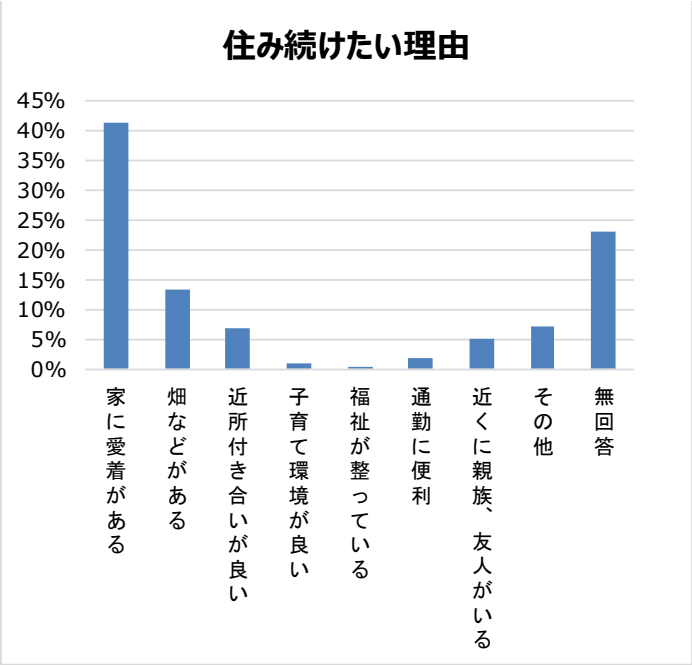
	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	無回答	合計	満足・やや満足	普通	不満＋やや不満
20代	2	1	25	24	17	3	72	4.2%	34.7%	56.9%
30代	2	0	50	50	50	0	152	1.3%	32.9%	65.8%
40代	2	8	104	126	63	3	306	3.3%	34.0%	61.8%
50代	2	13	200	157	131	17	520	2.9%	38.5%	55.4%
60代	6	22	314	264	152	46	804	3.5%	39.1%	51.7%
70代	9	17	257	125	75	104	587	4.4%	43.8%	34.1%
80歳以上	16	19	211	73	47	130	496	7.1%	42.5%	24.2%
無回答	0	3	36	10	8	15	72	4.2%	50.0%	25.0%
合　計	39	83	1,197	829	543	318	3,009	4.1%	39.8%	45.6%

「１－４－２．現在の家に住み続けたいと答えた方は、各質問で、あてはまるものに○をつけてください。

①住み続けたいと思う１番の理由にあてはまる番号に○をつけてください。」

傾向：子育て世帯に関連して、ごく少数ですが、「子育て環境が良い」を１番の理由に選ぶ回答がありました（20／1,938　1.0%）。

項目	回答数	%
全体	**1,938**	**100.0%**
家に愛着がある	803	41.4%
畑などがある	258	13.3%
近所付き合いが良い	135	7.0%
子育て環境が良い	20	1.0%
福祉が整っている	6	0.3%
通勤に便利	35	1.8%
近くに親族、友人がいる	98	5.1%
その他	136	7.0%
無回答	447	23.1%



【クロス集計　年齢×住み続けたい理由】

主に子育て世代となる年代別で住み続けたい 1 番の理由に関する回答を見ると、「子育て環境が良い」と回答（20／1,938　1.0%）したのは、ほぼ 20 代から 40 代となりました（16／20　※20 代から 40 代の合計)。一方で、20 代から 40 代で最も割合の高い回答は、「家に愛着がある」となりました（110／261　42.1%　※20 代から 40 代の合計と割合)。

年齢　×　住み続けたい理由

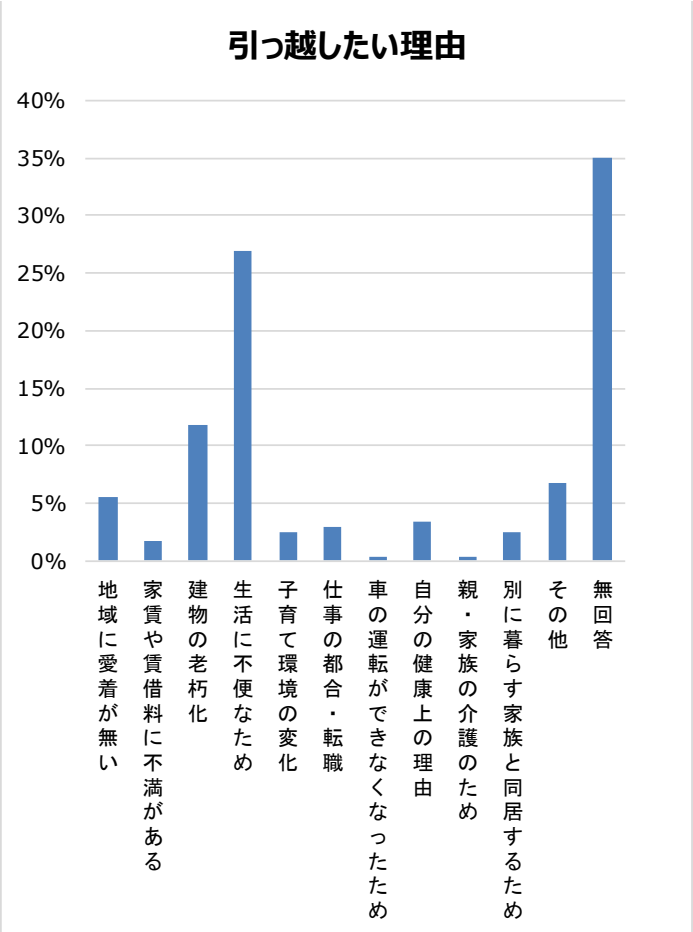
	家に愛着がある	畑などがある	近所付き合いが良い	子育て環境が良い	福祉が整っている	通勤に便利	近くに親族、友人がいる	その他	無回答	**合計**
20代	11	1	1	1	0	1	1	0	6	22
30代	27	7	1	8	0	5	5	8	16	77
40代	72	10	6	7	0	12	8	14	33	162
50代	128	38	15	3	0	11	11	31	58	295
60代	236	89	31	1	2	4	26	41	110	540
70代	167	56	35	0	1	2	22	26	114	423
80歳以上	148	49	40	0	3	0	23	15	94	372
無回答	14	8	6	0	0	0	2	1	16	47
合　計	803	258	135	20	6	35	98	136	447	1,938

「１－５．今の家から引っ越したい、または引っ越しする予定がある方は、次の質問にお答えください。

①今の家から引っ越したい、または引越しする予定の１番の理由にあてはまるものを選び、番号に○をつけて下さい。」

傾向：子育て世帯に関連して、ごく少数ですが、「子育て環境の変化」を 1 番の理由に選ぶ回答がありました（6／237　2.5%　※237：今後引越ししたい、または引越しする予定のある回答者数)。

項目	回答数	%
全体	**237**	**100.0%**
地域に愛着が無い	13	5.5%
家賃や賃借料に不満がある	4	1.7%
建物の老朽化	28	11.8%
生活に不便なため	64	27.0%
子育て環境の変化	6	2.5%
仕事の都合・転職	7	3.0%
車の運転ができなくなったため	1	0.4%
自分の健康上の理由	8	3.4%
親・家族の介護のため	1	0.4%
別に暮らす家族と同居するため	6	2.5%
その他	16	6.8%
無回答	83	35.0%

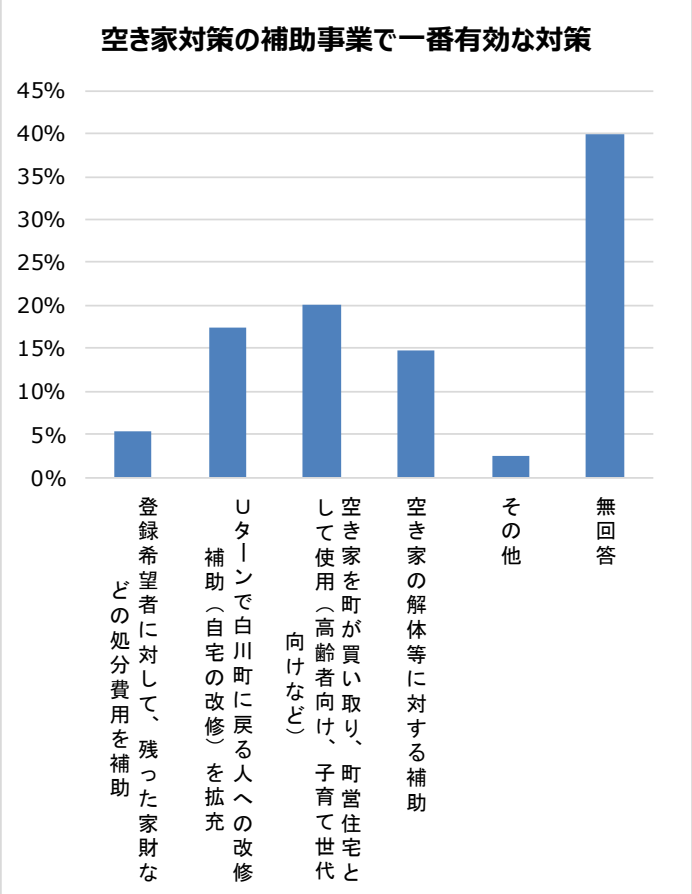


「２－４．総合的な空き家対策について

現在、下記のような事業を検討・実施していますが、空き家対策の補助事業として、どの対策が一番有効だと考えますか？そう思うもの１つに○をつけてください。」

傾向：子育て世帯に関連して、「空き家を町が買い取り、町営住宅として使用（高齢者向け、子育て世代向けなど）」の回答が 20.0%を占めており、行政の空き家対策とあわせて、子育て世代向けの住宅の充実への期待感がうかがえます。

項目	回答数	%
全体	**3,009**	**100.0%**
登録希望者に対して、残った家財などの処分費用を補助	164	5.5%
Uターンで白川町に戻る人への改修補助（自宅の改修）を拡充	523	17.4%
空き家を町が買い取り、町営住宅として使用（高齢者向け、子育て世代向けなど）	602	20.0%
空き家の解体等に対する補助	443	14.7%
その他	74	2.5%
無回答	1,203	40.0%



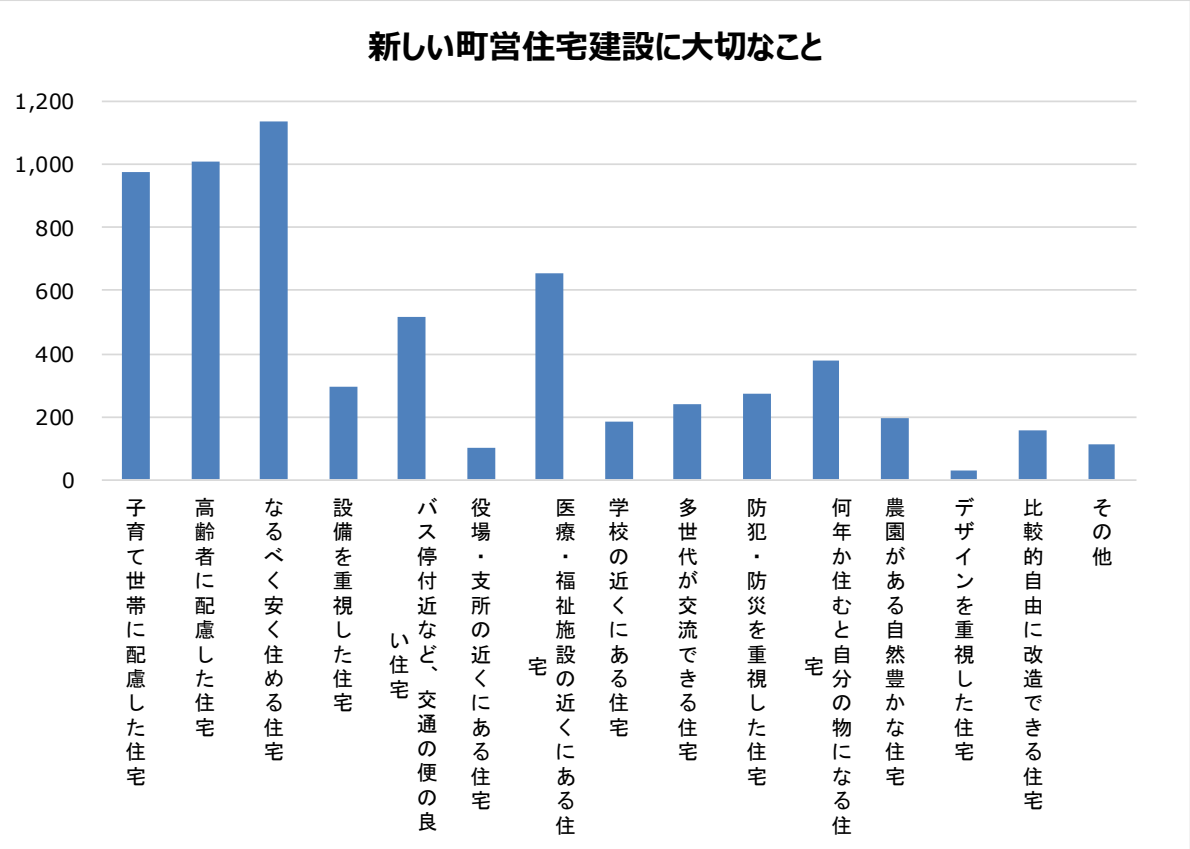
【クロス集計　年齢×空き家対策の補助事業で一番有効な対策】

主に子育て世代となる 20 代から 40 代において、空き家対策の補助事業で一番有効な対策とする回答は、「空き家を町が買い取り、町営住宅として使用（高齢者向け、子育て世代向けなど）」が最も多くなりました（155／530　29.2%　※20 代から 40 代の合計と割合）。子育て世代への住環境の整備への期待感が表れています。

「３－３．新しい町営住宅を建設するなら、どのようなことが大切だと思いますか？大切だと思うこと３つに○をつけてください。」

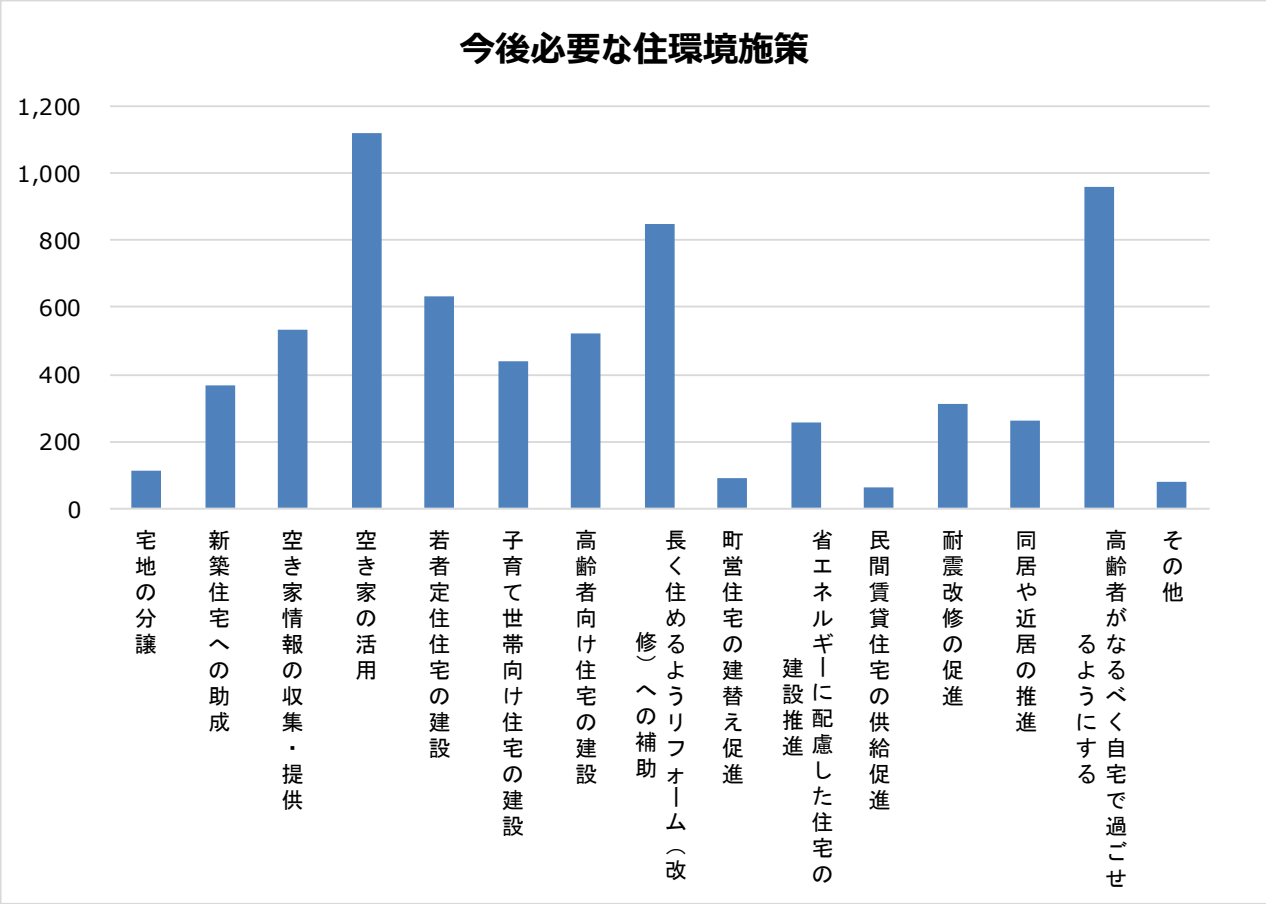
傾向：子育て世帯に関連して、「子育て世帯に配慮した住宅」（975）、「医療・福祉施設の近くにある住宅」（655）、「学校の近くにある住宅」（184）、「多世代が交流できる住宅」（237）が新しい町営住宅における大切な項目として回答が多く、町民の子育て世帯へのサポートの意識の高さがうかがえます。

項目	回答数
子育て世帯に配慮した住宅	975
高齢者に配慮した住宅	1,011
なるべく安く住める住宅	1,137
設備を重視した住宅	296
バス停付近など、交通の便の良い住宅	518
役場・支所の近くにある住宅	102
医療・福祉施設の近くにある住宅	655
学校の近くにある住宅	184
多世代が交流できる住宅	237
防犯・防災を重視した住宅	275
何年か住むと自分の物になる住宅	379
農園がある自然豊かな住宅	194
デザインを重視した住宅	31
比較的自由に改造できる住宅	155
その他	110



「４．今後の住環境施策についての質問です。
４－１．白川町では、今後どのような住環境施策が必要になると思いますか？そう思うものを３つに○をつけてください。」
傾向：子育て世帯に関連して、「子育て世帯向け住宅の建設」（437）の回答数が一定数あり、町民の子育て世帯へのサポートの意識の高さがうかがえます。

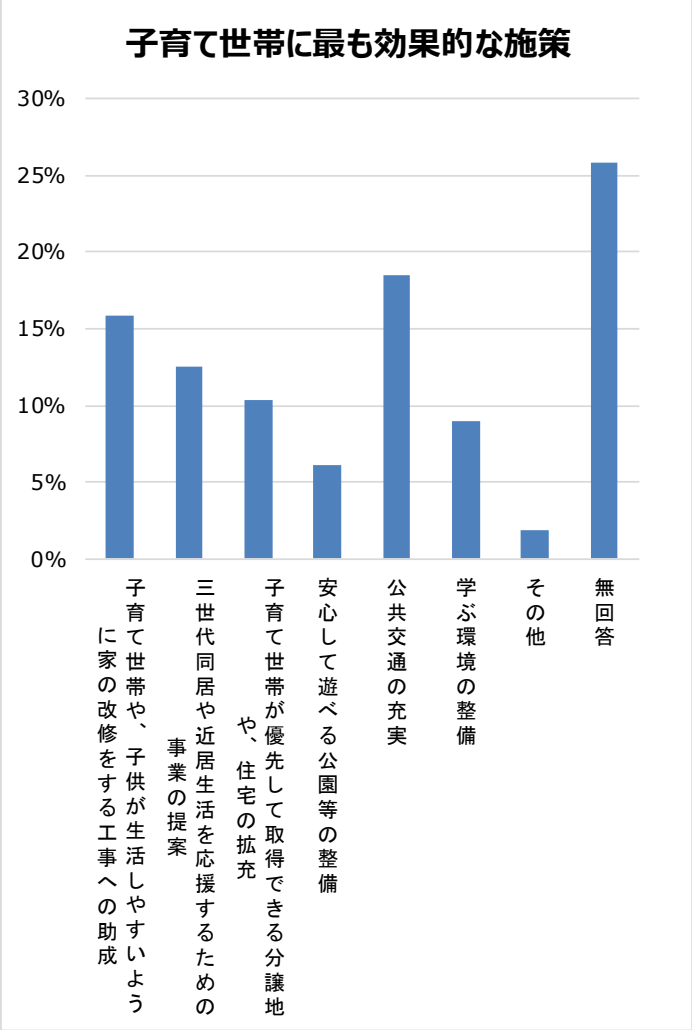
項目	回答数
宅地の分譲	111
新築住宅への助成	369
空き家情報の収集・提供	531
空き家の活用	1,121
若者定住住宅の建設	632
子育て世帯向け住宅の建設	437
高齢者向け住宅の建設	524
長く住めるようリフォーム（改修）への補助	846
町営住宅の建替え促進	91
省エネルギーに配慮した住宅の建設推進	258
民間賃貸住宅の供給促進	64
耐震改修の促進	310
同居や近居の推進	263
高齢者がなるべく自宅で過ごせるようにする	958
その他	82



「４－２．子育て世帯の生活に適した住環境を提供するために下記の選択肢の中で、どの施策が最も効果的だと考えますか？」

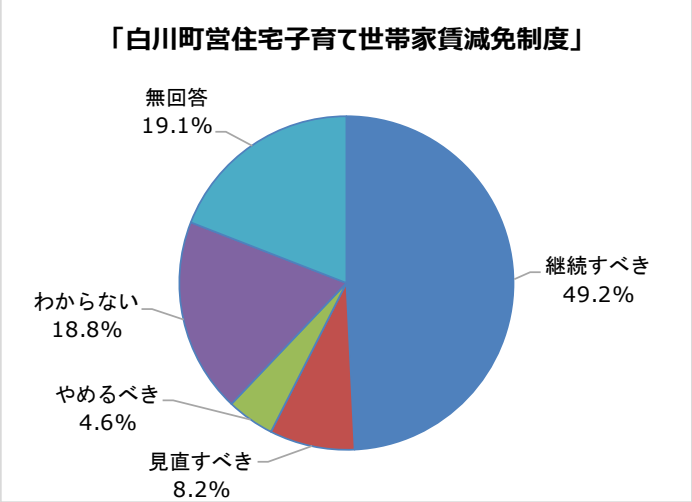
傾向：最も多い回答は、「子育て世帯や、子供が生活しやすいように家の改修をする工事への助成」で 15.8%となりました。次いで、「三世代同居や近居生活を応援するための事業の提案」が 12.5%、「子育て世帯が優先して取得できる分譲地や、住宅の拡充」が 10.4%でした。このことから、子育て世代または現代の生活様式にあわせた暮らしへの要望、また、共働きが多い現代において身近に子育てのサポート（祖父母等の同居等）への要望、また独立・自立した生活（住宅の取得）への要望がうかがえる結果であったといえます。

項目	回答数	%
全体	**3,009**	**100.0%**
子育て世帯や、子供が生活しやすいように家の改修をする工事への助成	476	15.8%
三世代同居や近居生活を応援するための事業の提案	377	12.5%
子育て世帯が優先して取得できる分譲地や、住宅の拡充	313	10.4%
安心して遊べる公園等の整備	185	6.1%
公共交通の充実	556	18.5%
学ぶ環境の整備	269	8.9%
その他	57	1.9%
無回答	776	25.8%



「４－４．白川町が現在行っている住宅支援施策について
②特定の町営住宅に住む高校卒業までの子一人につき 5,000 円の家賃減額が受けられる、『白川町営住宅子育て世帯家賃減免制度』が条例に定められています。」
傾向：子育て世帯への家賃減免制度について、「継続すべき」との回答が最も多く 49.2%（1,481／3009）であり、半数近くの町民が子育て世帯へのサポートの重要性を認識していることがうかがえます。

項目	回答数	%
全体	**3,009**	**100.0%**
継続すべき	1,481	49.2%
見直すべき	248	8.2%
やめるべき	139	4.6%
わからない	567	18.8%
無回答	574	19.1%



＜「子育て世帯」に関するまとめ＞
移動や買い物といった子育て世代にとっても重要な項目について、満足・やや満足と比べて、不満・やや不満の回答数が多くみられることから、子育て世代にとって白川町の住環境整備の改善への期待が大きく表れていると考えられます。
回答者の年代別で、主に子育て世代とされる 20 代、30 代の回答自体が少ない結果ではありますが、50 代以上の世代が次世代を担う子友達の生活・教育環境の整備が必要であるという回答も多く、地域社会全体で子育て世帯をサポートする重要性が認識されていると思われます。
また、自由記述では、「白川町には小児科が無い」、「学校ぐらい子ども自身が自力で通えるようにして欲しい。小学校へはスクールバスが近所から送って行ってくれるのでとてもありがたいが、中学生になるとスクールバスがなくなる」などの回答もあり、子どもを育てる環境である遊び場や病院、通学の利便性などの改善を求める意見が多くありました。

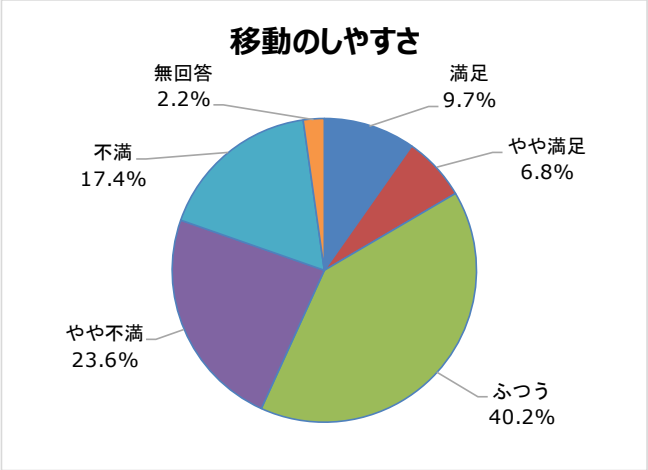
②「高齢世帯」

「高齢世帯」に関連するアンケート項目の集計について、「移動」、「買い物」、「医療」、「地域」など高齢者に関連するキーワードを踏まえて、アンケート結果を集約しました。

「１－３．周辺の住環境の満足度に関する項目についての質問です。
①出かける際の移動のしやすさについてどう思いますか？」

傾向：「不満・やや不満」が、「満足・やや満足」の数値（16.6%）を大きく超えて 41.0%となりました。ただし、「ふつう」と回答した割合が 40.2%と高く、現状に特段不満を持っていない層が多くを占める結果となりました。

項目	回答数	%
全体	**3,009**	**100.0%**
満足	293	9.7%
やや満足	205	6.8%
ふつう	1,211	40.2%
やや不満	709	23.6%
不満	524	17.4%
無回答	67	2.2%



【クロス集計　年齢×移動のしやすさ】

年代別と移動のしやすさを見ると、60 代から 80 代以上については、4 割から 3 割ほどと、子育て世代に比べて比較的低い傾向にあります。60 代は、43.2%（347／804）、70 代は、27.9%（164／587）、80 代以上は、31.5%（156／496）となりました。それぞれの年代の行動範囲に関連した傾向といえます。

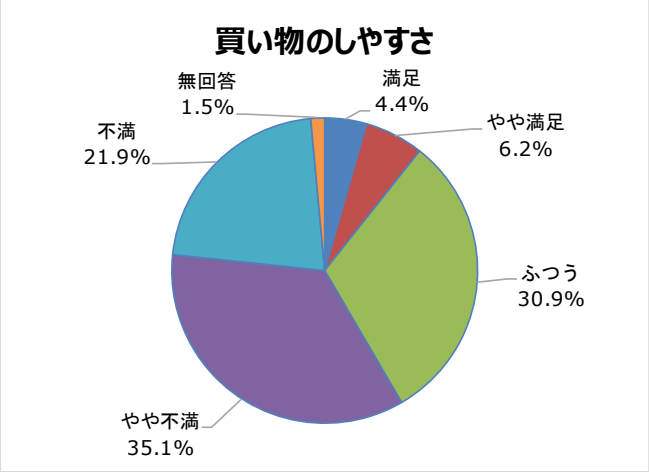
年齢 × 移動のしやすさ

	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	無回答	**合計**	満足･やや満足	普通	不満＋やや不満
20代	7	5	19	19	21	1	72	16.7%	26.4%	55.6%
30代	10	9	58	45	29	1	152	12.5%	38.2%	48.7%
40代	17	19	105	97	66	2	306	11.8%	34.3%	53.3%
50代	43	19	189	139	124	6	520	11.9%	36.3%	50.6%
60代	63	56	332	198	149	6	804	14.8%	41.3%	43.2%
70代	83	53	273	107	57	14	587	23.2%	46.5%	27.9%
80歳以上	65	42	205	91	65	28	496	21.6%	41.3%	31.5%
無回答	5	2	30	13	13	9	72	9.7%	41.7%	36.1%
合　計	293	205	1,211	709	524	67	3,009	16.6%	40.2%	41.0%

「１－３．周辺の住環境の満足度に関する項目についての質問です。
③買い物のしやすさについてどう思いますか？」

傾向：「不満・やや不満」が、「満足・やや満足」の数値（10.7%）を大きく超えて 56.9%であり、半数以上の回答者が現在の買い物の環境に不満を抱えていることがわかりました。ただし、「ふつう」と回答した割合が 30.9%と高く、現状に特段不満を持っていない層が約三分の一を占める結果となりました。

項目	回答数	%
全体	**3,009**	**100.0%**
満足	133	4.4%
やや満足	188	6.2%
ふつう	931	30.9%
やや不満	1,055	35.1%
不満	658	21.9%
無回答	44	1.5%



【クロス集計　住んでいる地区×買い物のしやすさ】

「三川地区」在住者の回答が、買い物のしやすさに対して、他地区に比べ最も多く「満足・やや満足」と回答（82／286）しており、地区の買い物環境の違いが明確な意識の差として現れたといえます。

住んでいる地区　×　買い物のしやすさ

	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	無回答	**合計**
白川口	22	38	69	88	42	3	262
泉野	7	8	42	52	23	3	135
中野	3	7	41	46	20	4	121
大山	3	15	61	53	34	1	167
坂ノ東	11	12	103	117	68	2	313
三川	38	44	118	61	24	1	286
赤河	8	17	103	85	38	6	257
切井	4	10	77	115	87	2	295
東黒川	5	5	37	66	59	4	176
西黒川	4	5	45	63	51	2	170
南黒川	7	6	50	76	48	2	189
北黒川	4	5	61	80	42	1	193
上佐見	10	8	57	78	65	9	227
下佐見	4	4	52	59	45	1	165
無回答	3	4	15	16	12	3	53
合　計	133	188	931	1,055	658	44	3,009

【クロス集計　年齢×買い物のしやすさ】

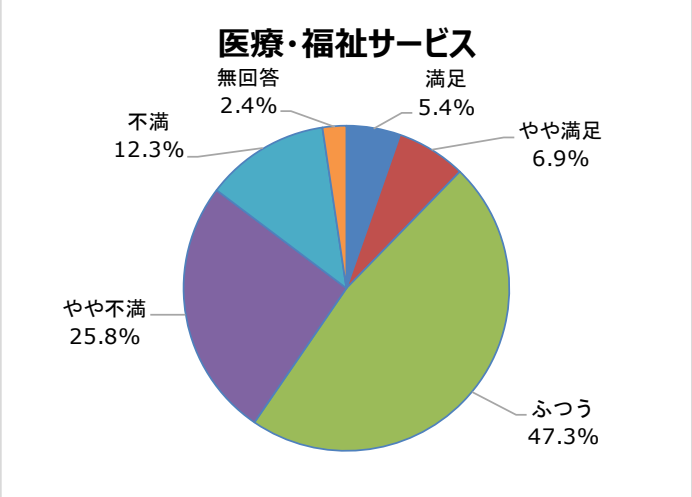
高齢世代である 70 代、80 代以上については、20 代から 60 代に比べて「不満・やや不満」の割合が低い傾向にあります。生活様式（買い物の対象等）の違いが関連しているといえます。

年齢　×　買い物のしやすさ

	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	無回答	合計	満足･やや満足	普通	不満＋やや不満
20代	4	3	20	19	24	2	72	9.7%	27.8%	59.7%
30代	3	13	46	55	34	1	152	10.5%	30.3%	58.6%
40代	10	17	75	130	71	3	306	8.8%	24.5%	65.7%
50代	15	20	135	183	162	5	520	6.7%	26.0%	66.3%
60代	24	49	242	325	161	3	804	9.1%	30.1%	60.4%
70代	35	42	209	186	104	11	587	13.1%	35.6%	49.4%
80歳以上	40	36	177	141	89	13	496	15.3%	35.7%	46.4%
無回答	2	8	27	16	13	6	72	13.9%	37.5%	40.3%
合　計	133	188	931	1,055	658	44	3,009	10.7%	30.9%	56.9%

「１－３．周辺の住環境の満足度に関する項目についての質問です。
④医療・福祉サービスの利用のしやすさについてどう思いますか？」
傾向：「不満・やや不満」が、「満足・やや満足」の数値（12.3%）を大きく超えて 38.1%となりました。一方で、「ふつう」と回答した割合が 47.3%と高く、現状に特段不満を持っていない層が半数近くの割合を占める結果となりました。

項目	回答数	%
全体	**3,009**	**100.0%**
満足	161	5.4%
やや満足	208	6.9%
ふつう	1,423	47.3%
やや不満	775	25.8%
不満	371	12.3%
無回答	71	2.4%



【クロス集計　年齢×医療・福祉サービス】

高齢世代である 70 代、80 代以上については、20 代から 60 代に比べて「不満・やや不満」の割合が低い傾向にあります。高齢世代にとって、現在の医療・福祉サービスに対してはそれほど不満を持っていないようです。

年齢 × 医療･福祉サービス

	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	無回答	合計	満足･やや満足	普通	不満＋やや不満
20代	1	4	42	15	9	1	72	6.9%	58.3%	33.3%
30代	3	4	66	47	31	1	152	4.6%	43.4%	51.3%
40代	1	16	128	115	46	0	306	5.6%	41.8%	52.6%
50代	16	21	216	157	103	7	520	7.1%	41.5%	50.0%
60代	27	43	395	231	92	16	804	8.7%	49.1%	40.2%
70代	37	61	297	128	46	18	587	16.7%	50.6%	29.6%
80歳以上	71	53	244	68	39	21	496	25.0%	49.2%	21.6%
無回答	5	6	35	14	5	7	72	15.3%	48.6%	26.4%
合 計	161	208	1,423	775	371	71	3,009	12.3%	47.3%	38.1%

【クロス集計　住んでいる地区×医療・福祉サービス】

白川町内の 14 地区において、医療・福祉サービスについては、地区間で「満足」から「不満」の項目で回答の割合で大きな差はありませんでした。

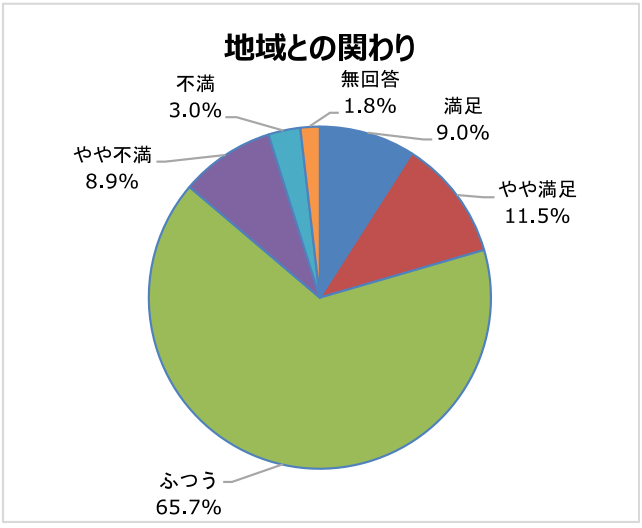
「１－３．周辺の住環境の満足度に関する項目についての質問です。

⑨地域との関わりについてどう思いますか？」

傾向：高齢世帯にとって今後重要になる地域との関わり、すなわち地域コミュニティとのつながりについては、「ふつう」との回答が 65.7%であり、特別満足も、不満もない状況といえます。

⑨ 地域との関わりについてどう思いますか？

項目	回答数	%
全体	**3,009**	**100.0%**
満足	272	9.0%
やや満足	345	11.5%
ふつう	1,977	65.7%
やや不満	269	8.9%
不満	91	3.0%
無回答	55	1.8%

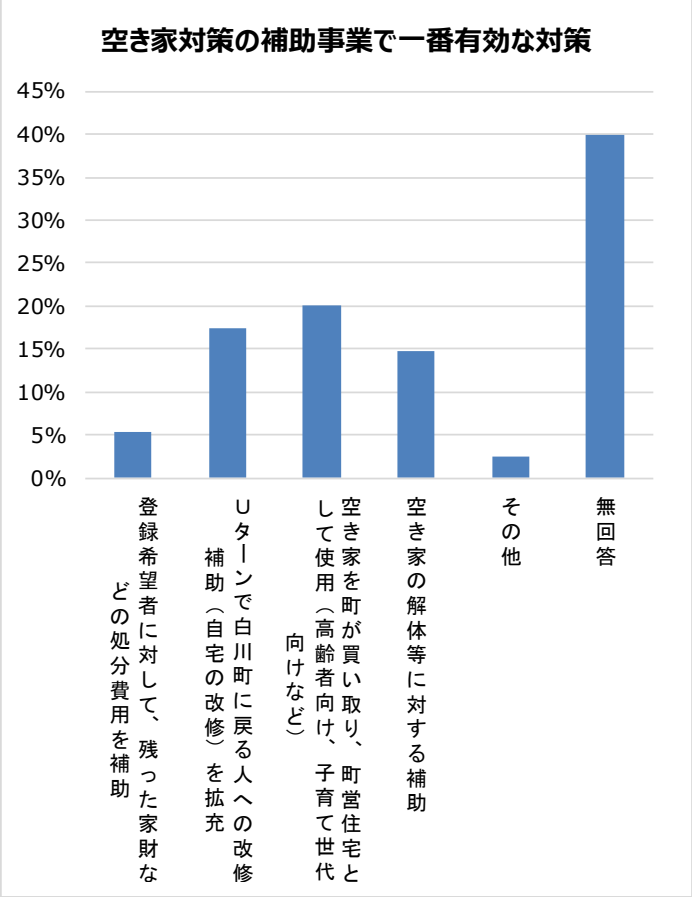


「２－４．総合的な空き家対策について

現在、下記のような事業を検討・実施していますが、空き家対策の補助事業として、どの対策が一番有効だと考えますか？そう思うもの１つに○をつけてください。」

傾向：高齢世帯に関連して、「空き家を町が買い取り、町営住宅として使用（高齢者向け、子育て世代向けなど)」の回答が 20.0%を占めており、行政の空き家対策とあわせて、高齢者向けの住宅の充実への期待感がうかがえます。

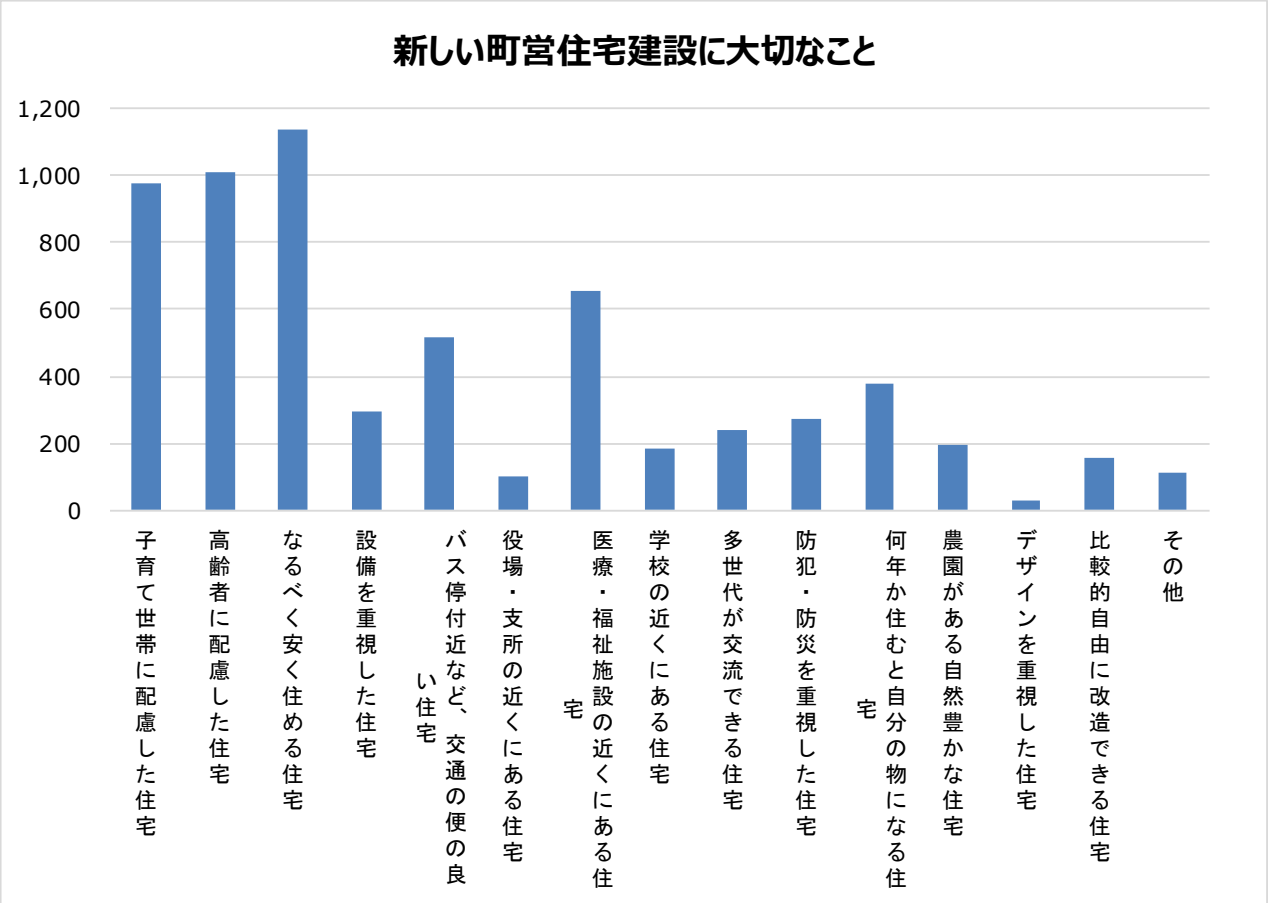
項目	回答数	%
全体	**3,009**	**100.0%**
登録希望者に対して、残った家財などの処分費用を補助	164	5.5%
Ｕターンで白川町に戻る人への改修補助（自宅の改修）を拡充	523	17.4%
空き家を町が買い取り、町営住宅として使用（高齢者向け、子育て世代向けなど)	602	20.0%
空き家の解体等に対する補助	443	14.7%
その他	74	2.5%
無回答	1,203	40.0%



「３－３．新しい町営住宅を建設するなら、どのようなことが大切だと思いますか？大切だと思うこと３つに○をつけてください。」

傾向：高齢世帯に関連して、「高齢者に配慮した住宅」(1,011)、「医療・福祉施設の近くにある住宅」(655)、「多世代が交流できる住宅」(237) が新しい町営住宅で大切な項目としてあげられており、町民の高齢者へのサポートが重要であるとする認識が表れています。

項目	回答数
子育て世帯に配慮した住宅	975
高齢者に配慮した住宅	1,011
なるべく安く住める住宅	1,137
設備を重視した住宅	296
バス停付近など、交通の便の良い住宅	518
役場・支所の近くにある住宅	102
医療・福祉施設の近くにある住宅	655
学校の近くにある住宅	184
多世代が交流できる住宅	237
防犯・防災を重視した住宅	275
何年か住むと自分の物になる住宅	379
農園がある自然豊かな住宅	194
デザインを重視した住宅	31
比較的自由に改造できる住宅	155
その他	110



【クロス集計　年齢×新しい町営住宅建設に大切なこと】

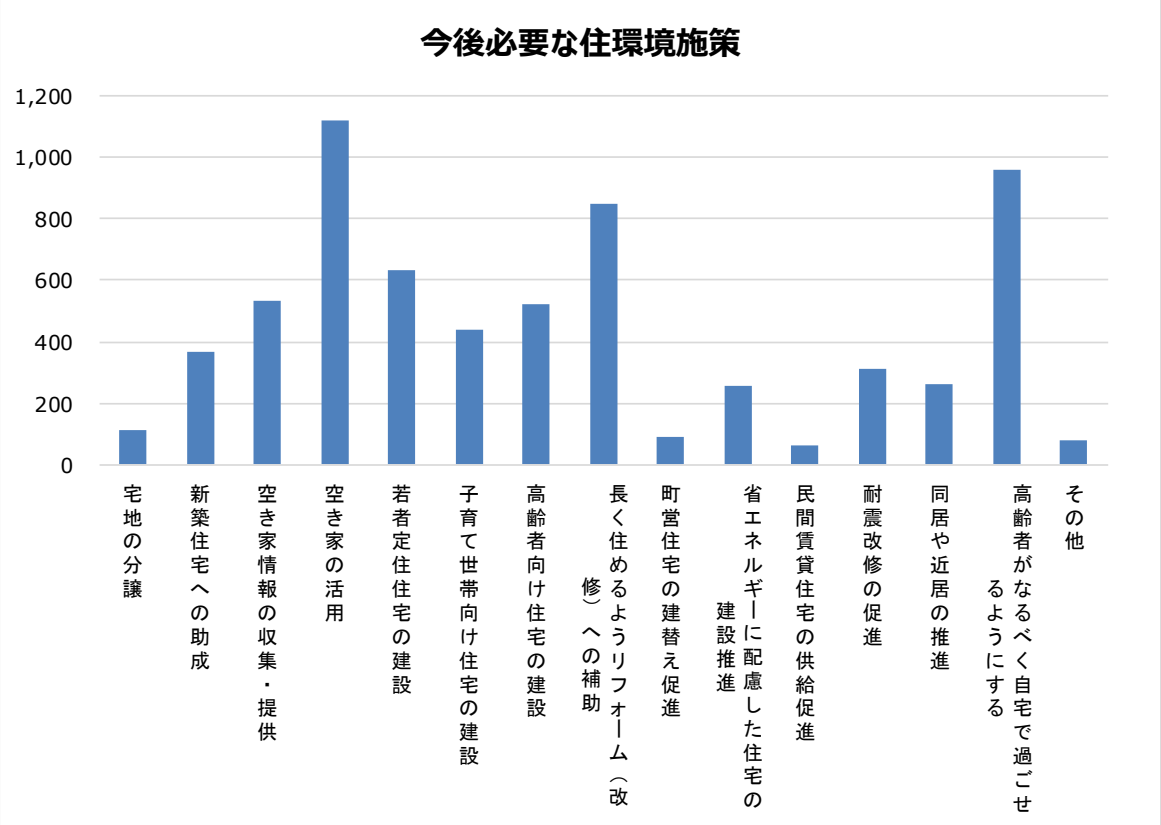
全世代において、「子育て世帯に配慮した住宅」と並んで「高齢者に配慮した住宅」の回答数が多くありました。どの世代にとっても、子育て世帯と高齢世帯に対するサポートが大切であるという認識が表れています。

「４．今後の住環境施策についての質問です。

４－１．白川町では、今後どのような住環境施策が必要になると思いますか？そう思うものを３つに○をつけてください。」

傾向：高齢世帯に関連して、「高齢者がなるべく自宅で過ごせるようにする」(958)、「高齢者向け住宅の建設」(524) との回答が上位にきており、高齢者に対する行政のサポートを必要とする意識が高いと思われます。

項目	回答数
宅地の分譲	111
新築住宅への助成	369
空き家情報の収集・提供	531
空き家の活用	1,121
若者定住住宅の建設	632
子育て世帯向け住宅の建設	437
高齢者向け住宅の建設	524
長く住めるようリフォーム（改修）への補助	846
町営住宅の建替え促進	91
省エネルギーに配慮した住宅の建設推進	258
民間賃貸住宅の供給促進	64
耐震改修の促進	310
同居や近居の推進	263
高齢者がなるべく自宅で過ごせるようにする	958
その他	82



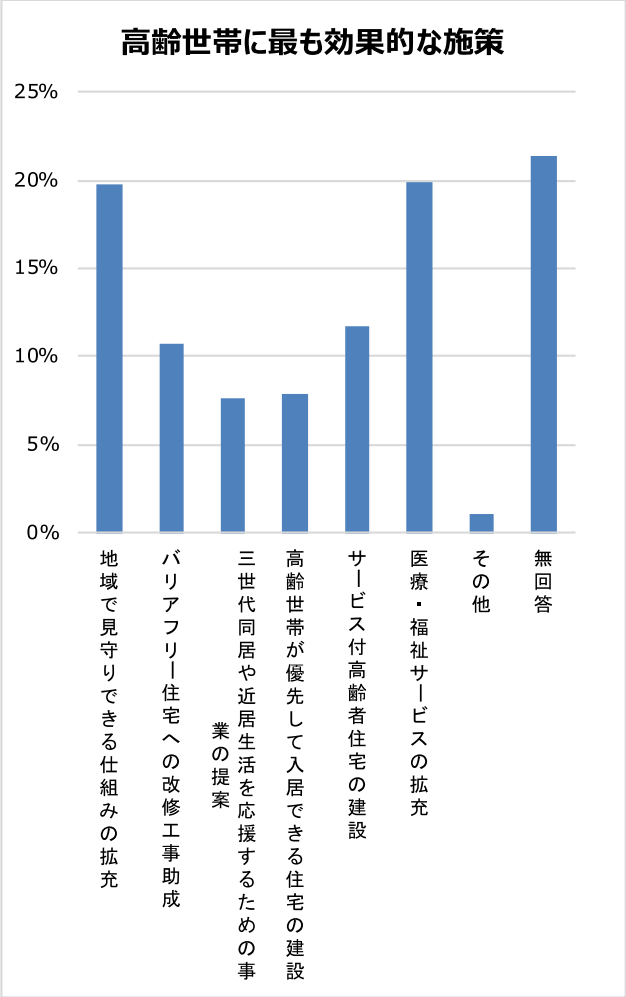
【クロス集計　年齢×今後必要な住環境施策】

「高齢者がなるべく自宅で過ごせるようにする」の選択肢について、特に 60 代から 80 代以上からの回答数が多く、現在の住宅に長く住みたいという意識が反映されたものといえます。

「４－３．高齢世帯の生活に適した住環境を提供するために、下記の選択肢の中で、どの施策が最も効果的だと考えますか？あてはまるもの１つ選んでください。」

傾向：「地域で見守りできる仕組みの拡充」（19.8%）や「医療／福祉サービスの拡充」（19.9%）が上位にきており、ハード面でのサポートより、ソフト面でのサポートが重要であるとの意識が表れていると思われます。

項目	回答数	%
全体	**3,009**	**100.0%**
地域で見守りできる仕組みの拡充	595	19.8%
バリアフリー住宅への改修工事助成	323	10.7%
三世代同居や近居生活を応援するための事業の提案	231	7.7%
高齢世帯が優先して入居できる住宅の建設	235	7.8%
サービス付高齢者住宅の建設	353	11.7%
医療･福祉サービスの拡充	598	19.9%
その他	31	1.0%
無回答	643	21.4%



＜「高齢世帯」に関するまとめ＞

「高齢世帯」に関するアンケート結果を集約しましたが、「買い物」や「移動」については、若い世代に比べて 60 代、70 代のほうがむしろ「不満・やや不満」の割合が低い傾向にありました。「医療・福祉サービス」も同様に 70 代、80 代以上が不満と感じる割合が低い傾向にあります。これは、若い世代と高齢世代では、生活様式（生活ス

タイル）や求める内容などの違いが反映されているものと思われます。

空き家の活用や新しい町営住宅に関する質問については、高齢者向けの住宅の充実を求める意見が多くありましたが、一方で施策に関する質問からは、ハード面でのサポートよりもソフト面でのサポートを求める傾向にあります。

また、自由記述では、「1 人暮らしの高齢者も安心して暮らせるような住宅を提供して欲しい」や「高齢世帯（独居老人）が増加している中で、現在の住宅のままでは隣同士も遠く、何をするにも広範囲エリアを少人数で生活することになります。高齢世帯向けの集合住宅を各自治会に建設して、生活エリアを狭いエリアにして皆で共同生活を送るような住環境対策を希望します」などの回答があり、一人暮らし（独居）への不安とその対応策を求める声がみられました。

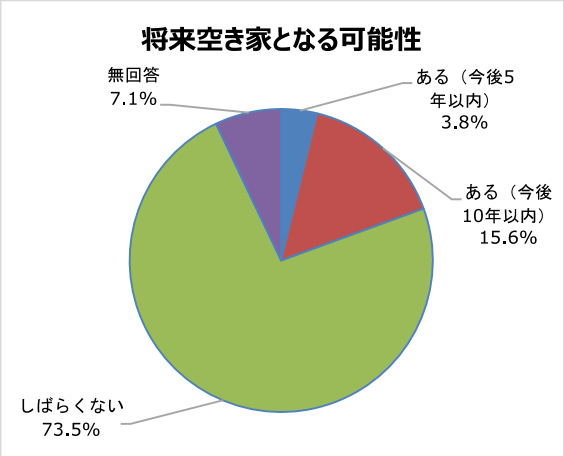
③「空き家」

「空き家」に関連するアンケート結果を以下のように集約しました。

「２．空き家についての質問です。２－１．白川町では、人口減少や引っ越しなどの理由により、空き家が増えています。現在お住まいの家は、将来空き家となる可能性はありますか？」

傾向：7 割以上の回答が「しばらくない」としており、これは「現在のお住まいに住み続けたいと思いますか」という質問項目の回答で「はい」が 64.4%であったことと相関した結果であると思われます。

項目	回答数	%
全体	**2,799**	**100.0%**
ある（今後5年以内）	107	3.8%
ある（今後10年以内）	437	15.6%
しばらくない	2,057	73.5%
無回答	198	7.1%



【クロス集計　年齢×将来空き家となる可能性】

どの世代においても「しばらくない」とする回答が多く、現在の住まいに住み続けたいとする意識が反映されたものと思われます。

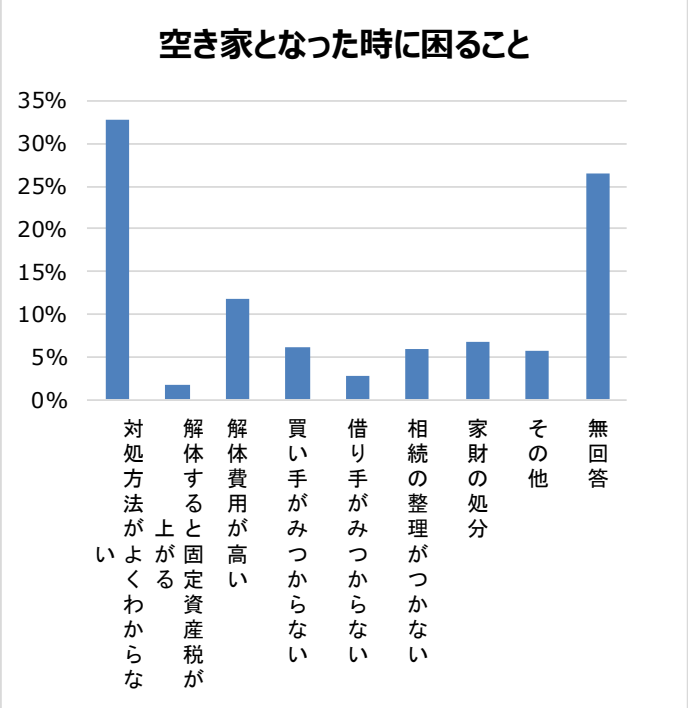
年齢 × 将来空き家となる可能性

	ある（今後5年以内）	ある（今後10年以内）	しばらくない	無回答	合計
20代	1	3	41	4	49
30代	0	9	97	1	107
40代	2	15	234	11	262
50代	8	43	409	19	479
60代	13	128	619	28	788
70代	24	112	382	48	566
80歳以上	53	117	241	71	482
無回答	6	10	34	16	66
合　計	107	437	2,057	198	2,799

「２－２．もし自分の家が空き家となった時に困ると思うことで、もっともあてはまものを１つに○をつけてください。」

傾向：最も多い回答が、「対処方法がよくわからない」（32.7%）であり、空き家に対する不安を漠然と抱えていることがうかがえます。

項目	回答数	%
全体	**2,799**	**100.0%**
対処方法がよくわからない	916	32.7%
解体すると固定資産税が上がる	51	1.8%
解体費用が高い	330	11.8%
買い手がみつからない	170	6.1%
借り手がみつからない	78	2.8%
相続の整理がつかない	164	5.9%
家財の処分	187	6.7%
その他	159	5.7%
無回答	744	26.6%



【クロス集計　年齢×空き家となったときに困ること】

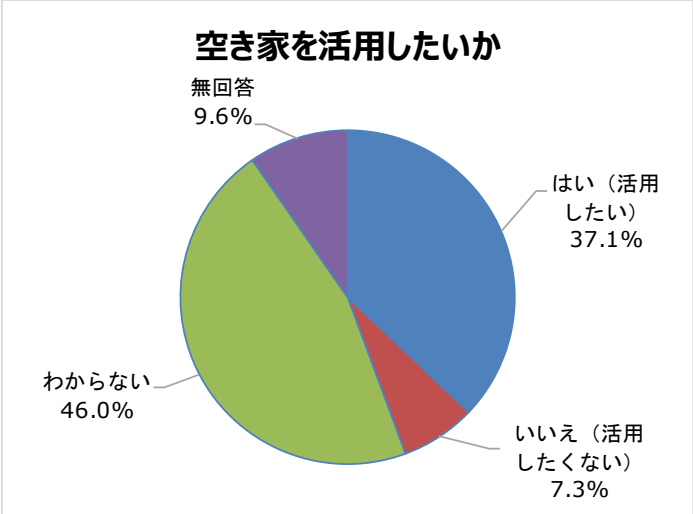
どの世代においても「対処方法がよくわからない」とする回答が多く、空き家に対応する情報が十分に浸透していない可能性を示しています。

	対処方法がよくわからない	解体すると固定資産税が上がる	解体費用が高い	買い手がみつからない	借り手がみつからない	相続の整理がつかない	家財の処分	その他	無回答	**合計**
20代	25	3	3	4	0	1	1	2	10	49
30代	43	6	17	7	3	3	6	6	16	107
40代	123	5	30	21	11	9	17	10	36	262
50代	192	7	63	39	18	34	25	17	84	479
60代	238	15	116	50	20	61	79	38	171	788
70代	156	9	64	29	16	32	31	35	194	566
80歳以上	130	5	33	16	10	22	24	48	194	482
無回答	9	1	4	4	0	2	4	3	39	66
合　計	916	51	330	170	78	164	187	159	744	2,799

「２－３－１．もし自分の家が空き家となった場合、貸す・売る・壊すなど、活用したいと思いますか？」

傾向：活用したいとの回答は、4 割近い数字（37.1%）を示しており、積極的な活用に意識を持つ町民が多いと思われる一方で、「わからない」が最も多く 46.0%となりました。上記の「対処方法がよくわからない」とする回答にも関連していると思われます。

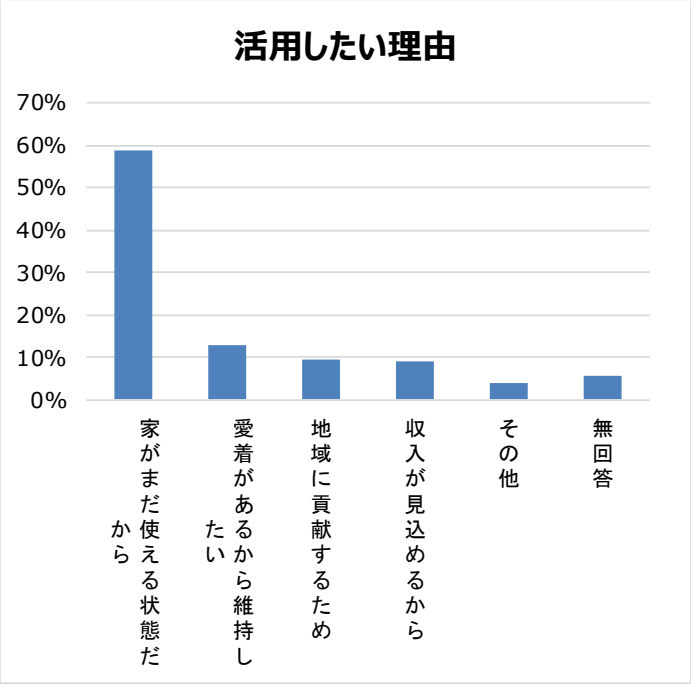
項目	回答数	%
全体	**2,799**	**100.0%**
はい（活用したい）	1,039	37.1%
いいえ（活用したくない）	203	7.3%
わからない	1,287	46.0%
無回答	270	9.6%



「２－３－２．「活用したい」と答えた方は、もっともあてはまるもの１つに○をつけてください。」

傾向：最も多い回答は、「家がまだ使える状態だから」の 58.8%でした。一方で、「愛着があるから維持したい」との回答は 13.1%であり、「活用したくない」の回答にも住宅への愛着を理由にした回答があることから、所有者の感情が大きく住宅活用の可否に大きく関わることがうかがえます。

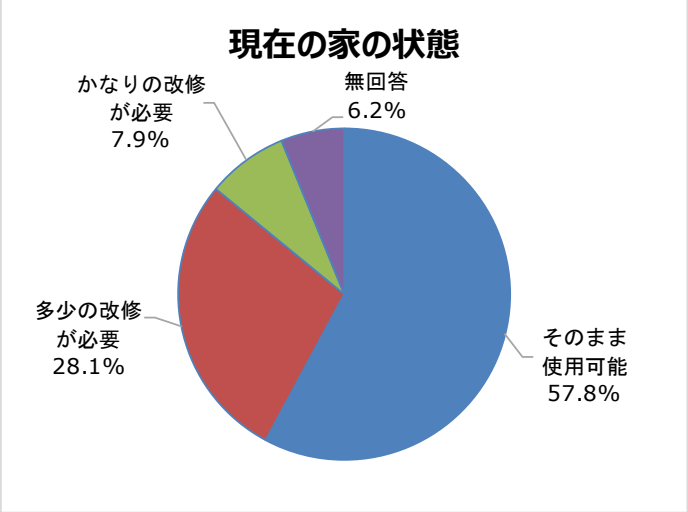
項目	回答数	%
全体	**1,039**	**100.0%**
家がまだ使える状態だから	611	58.8%
愛着があるから維持したい	136	13.1%
地域に貢献するため	99	9.5%
収入が見込めるから	95	9.1%
その他	40	3.8%
無回答	58	5.6%



「２－３－３．「活用したい」と答えた方は、次の質問にお答えください。」

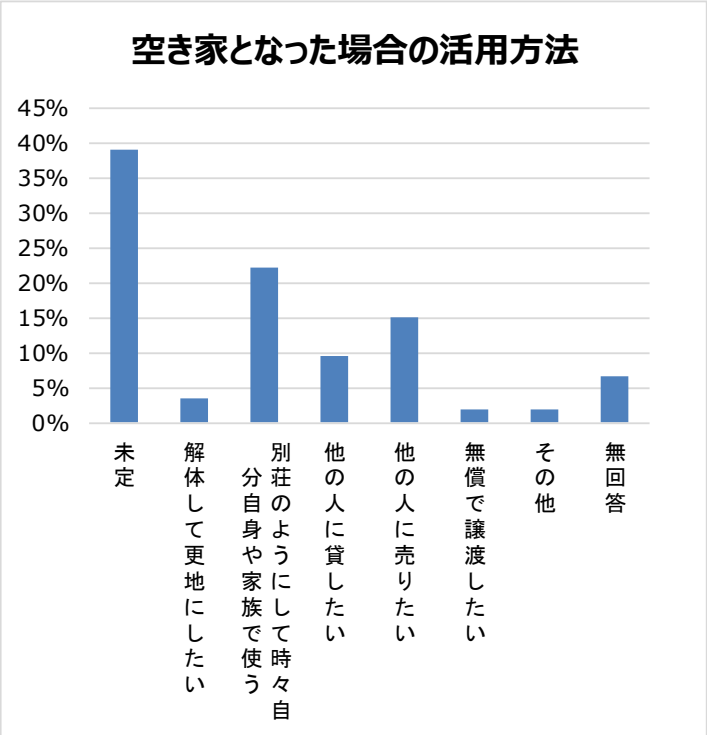
傾向：住宅の状態は、「そのまま使用可能」が 57.8%と最も多く、活用方法は、「自分自身で使う」、「他の人に貸したい」、「他の人に売りたい」、「無償で譲渡したい」の合計（48.9%）と近いものを示しています。一方で、「未定」との回答が最も多く 39.1%であり、有効な活用方法（対処方法）がわからない可能性を示しています。

項目	回答数	%
全体	**1,039**	**100.0%**
そのまま使用可能	601	57.8%
多少の改修が必要	292	28.1%
かなりの改修が必要	82	7.9%
無回答	64	6.2%



② 空き家となった場合の活用方法について、あてはまるもの１つに○をつけてください。

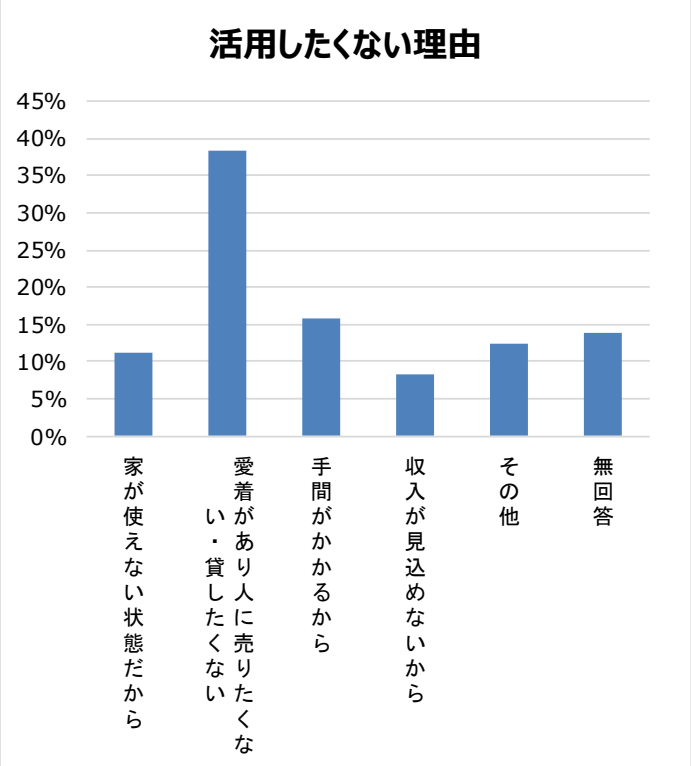
項目	回答数	%
全体	**1,039**	**100.0%**
未定	406	39.1%
解体して更地にしたい	37	3.6%
別荘のようにして時々自分自身や家族で使う	232	22.3%
他の人に貸したい	98	9.4%
他の人に売りたい	158	15.2%
無償で譲渡したい	20	1.9%
その他	20	1.9%
無回答	68	6.5%



「２－３－４.「活用したくない」と答えた方は、もっともあてはまる理由を１つに○をつけてください。」

傾向：最も多い回答は、「愛着があるため」の 38.4%であり、所有者の感情的な側面が大きいことがわかります。

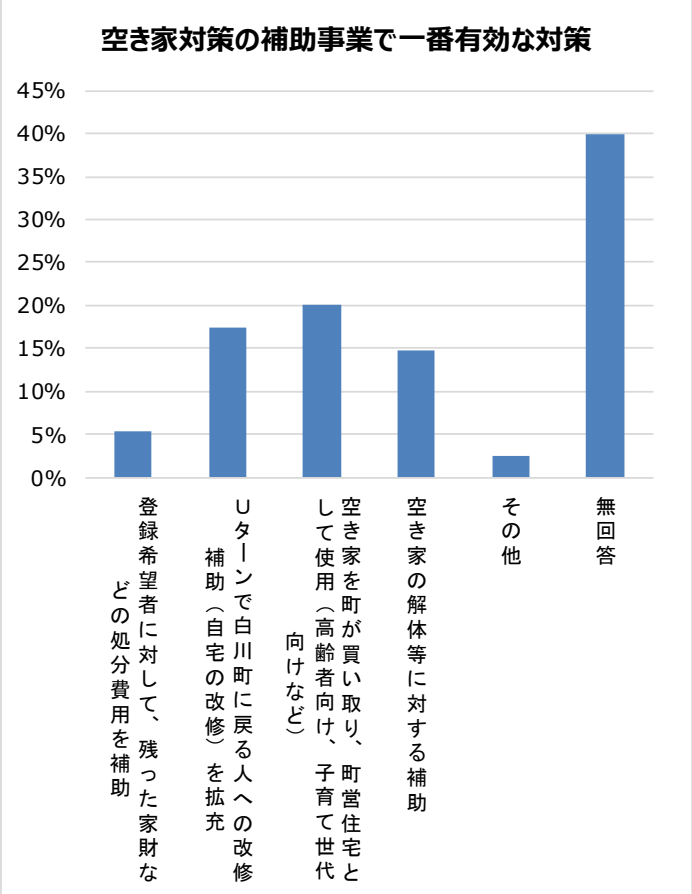
項目	回答数	%
全体	**203**	**100.0%**
家が使えない状態だから	23	11.3%
愛着があり人に売りたくない・貸したくない	78	38.4%
手間がかかるから	32	15.8%
収入が見込めないから	17	8.4%
その他	25	12.3%
無回答	28	13.8%



「２－４．総合的な空き家対策について」

傾向：補助事業の有効な対策として、「高齢者・子育て世代向けの町営住宅として活用する」が 20.0%と最も回答数が多く、次いで「U ターンで戻る人への改修補助」が 17.4%と多くありました。若者、子育て世代の空き家利用への期待が高いことが読み取れます。一方で、「無回答」が 40%あり、空き家対策の補助事業の内容やその有効性を判断するための情報が町民に伝わっておらず、選択肢の中から「一番有効な対策」を選択できなかった可能性もあります。

項目	回答数	%
全体	**3,009**	**100.0%**
登録希望者に対して、残った家財などの処分費用を補助	164	5.5%
Uターンで白川町に戻る人への改修補助（自宅の改修）を拡充	523	17.4%
空き家を町が買い取り、町営住宅として使用（高齢者向け、子育て世代向けなど）	602	20.0%
空き家の解体等に対する補助	443	14.7%
その他	74	2.5%
無回答	1,203	40.0%



＜「空き家」に関するまとめ＞

「空き家」については、白川町の 9 割が持家であることから、今後空き家の増加が危惧される状況にあります。このような中で、回答者の多くが、空き家になる可能性がしばらくないと答えています。一方で、空き家になった場合は「活用したい」とする回答が 4 割弱でありましたが、「わからない」とする回答が最も多くありました。空き家の活用方法についても「未定」とする回答が最も多く、まだ現実的なこととして捉えられていない様子がうかがえます。

総合的な空き家対策においては、「無回答」が最も多く 40.0%でありますが、U ターン者向け住宅や町営住宅としての活用方法が最も有効とする回答が多くみられ、空き家対策と地域の課題を関連させて捉えていることがわかります。

自由記述では、「空き家バンク推進＝1 人暮らしの高齢者排除とならないように（生き急ぐ・生き急がせる）配慮も大切に進めて行かれることを願います」や「空き家が本当に増えてきているので空き家を有効に利用できるよう、空き家バンクをもっと知ってもらうと良いです」、「空き家が沢山有るが家財がある、位牌がある、夏の避暑地として使いたい、と色々な理由で借りられないのが現状なので、空き家の所有者への働きかけが必要と思う」などの意見があり、空き家にまつわる町民の多様な考え方がうかがえます。

④「若者の移住・定住」

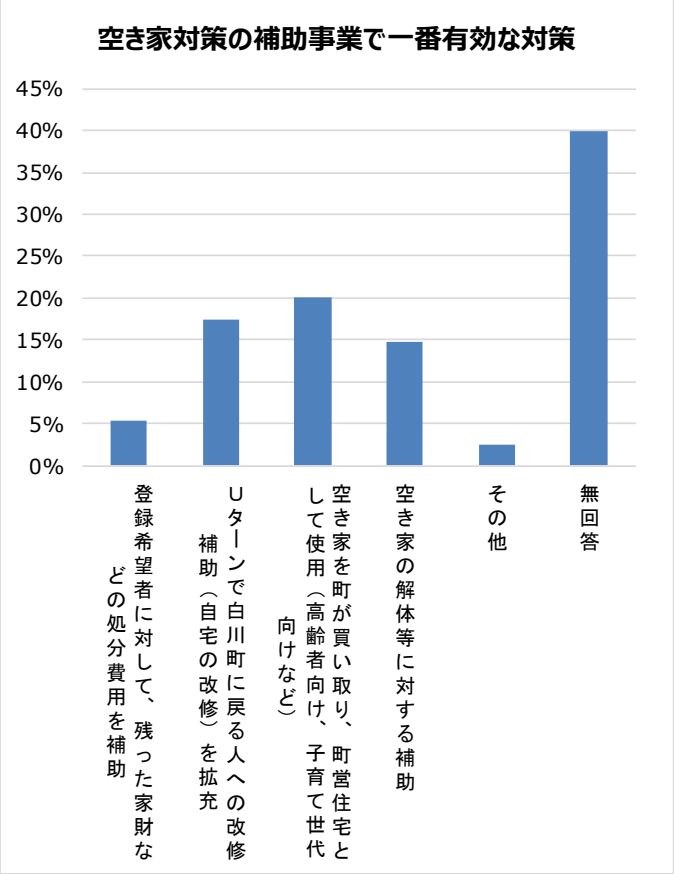
今回のアンケート調査では「若者の移住・定住」についての直接的な質問項目はありませんが、関連するキーワード（「若者」、「U ターン」等）を踏まえて、以下のようにアンケート結果を集約しました。

「２－４．総合的な空き家対策について

現在、下記のような事業を検討・実施していますが、空き家対策の補助事業として、どの対策が一番有効だと考えますか？そう思うもの１つに○をつけてください。」

傾向：U ターン移住者への改修補助に対する回答が 17.4%と多く、主に若者の移住定住への期待感がうかがえます。

項目	回答数	%
全体	**3,009**	**100.0%**
登録希望者に対して、残った家財などの処分費用を補助	164	5.5%
Uターンで白川町に戻る人への改修補助（自宅の改修）を拡充	523	17.4%
空き家を町が買い取り、町営住宅として使用（高齢者向け、子育て世代向けなど）	602	20.0%
空き家の解体等に対する補助	443	14.7%
その他	74	2.5%
無回答	1,203	40.0%



【クロス集計　年齢×空き家対策の補助事業で一番有効な対策】

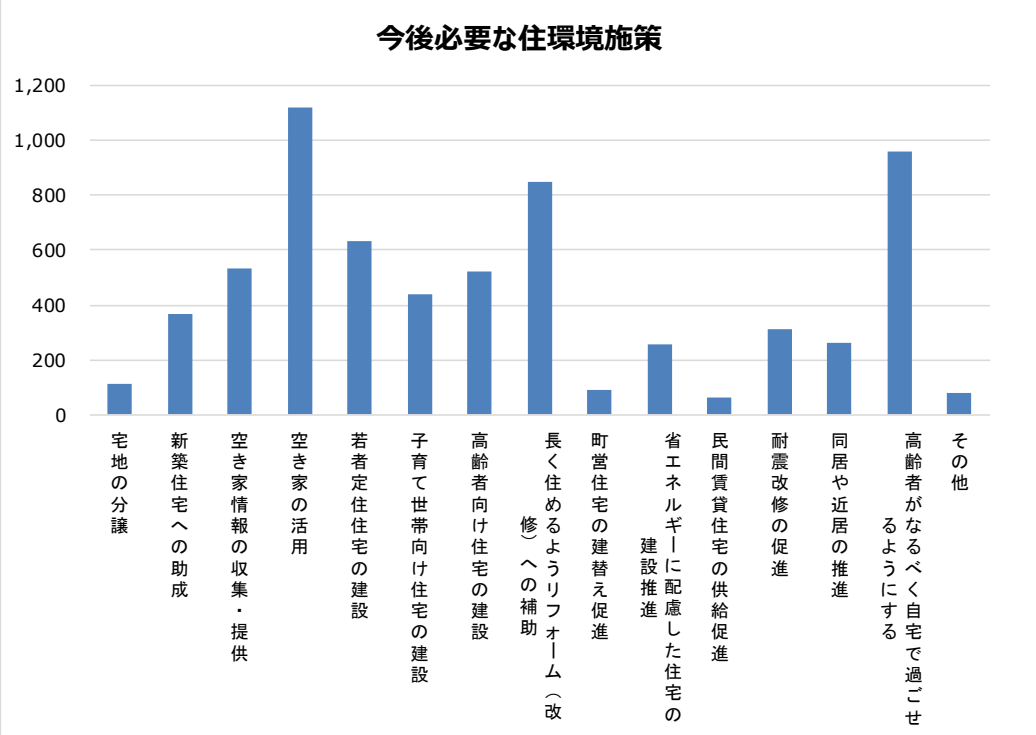
20 代から 70 代までの幅広い世代で、空き家対策の補助事業で一番有効な対策とする回答は、「Uターンで白川町に戻る人への改修補助（自宅の改修）を拡充」が 2 割前後あり、若者も含む移住・定住（U ターンとして）への行政サポートの重要性が表れていると思われます。

「４．今後の住環境施策についての質問です。

４－１．白川町では、今後どのような住環境施策が必要になると思いますか？そう思うものを３つに○をつけてください。」

傾向：若者の移住・定住に関連して、「若者定住住宅の建設」（632）が必要な施策として選ばれており、町民の意識が一定程度あると思われます。また、「空き家の活用」（1,121）が最も多く、その中にはＵターン者への住宅提供とあわせて、若者移住・定住への支援も含まれるのではないかと推測できます。

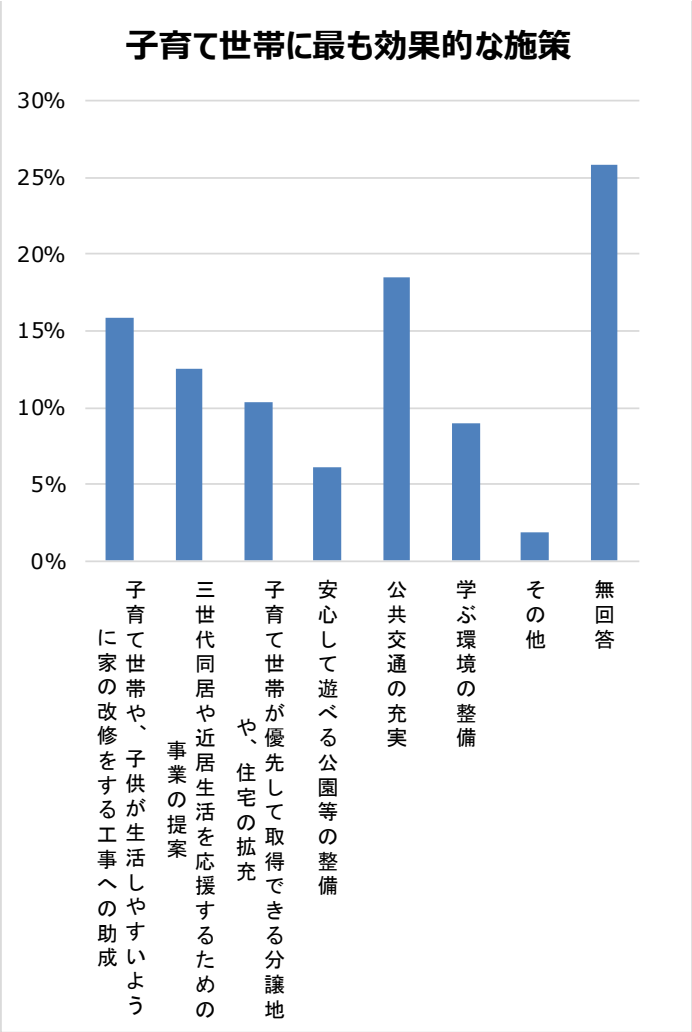
項目	回答数
宅地の分譲	111
新築住宅への助成	369
空き家情報の収集・提供	531
空き家の活用	1,121
若者定住住宅の建設	632
子育て世帯向け住宅の建設	437
高齢者向け住宅の建設	524
長く住めるようリフォーム（改修）への補助	846
町営住宅の建替え促進	91
省エネルギーに配慮した住宅の建設推進	258
民間賃貸住宅の供給促進	64
耐震改修の促進	310
同居や近居の推進	263
高齢者がなるべく自宅で過ごせるようにする	958
その他	82



「４－２．子育て世帯の生活に適した住環境を提供するために下記の選択肢の中で、どの施策が最も効果的だと考えますか？」

傾向：最も多い回答は、「子育て世帯や、子供が生活しやすいように家の改修をする工事への助成」の 15.8%であり、「子育て世帯が優先して取得できる分譲地や、住宅の拡充」が 10.4%となりました。このことから、町民における子育て世代の移住・定住に対する意識が高いと思われます。

項目	回答数	%
全体	**3,009**	**100.0%**
子育て世帯や、子供が生活しやすいように家の改修をする工事への助成	476	15.8%
三世代同居や近居生活を応援するための事業の提案	377	12.5%
子育て世帯が優先して取得できる分譲地や、住宅の拡充	313	10.4%
安心して遊べる公園等の整備	185	6.1%
公共交通の充実	556	18.5%
学ぶ環境の整備	269	8.9%
その他	57	1.9%
無回答	776	25.8%



＜「若者の移住・定住」に関するまとめ＞

「若者の移住・定住」については、空き家の活用に関連する質問項目から、町民が若者の移住・定住に対して期待していることがうかがえます。特に少子高齢化の中で、子育て世代の移住・定住への期待感が高いように見受けられます。

自由記述では、「町外からの移住者の方が沢山居られます。その事に対してはとても良い事だと思いますが、ご近所とのお付き合いが上手く出来ない方々が多く居られま

す。せっかく定住を選ばれたのなら、近所や地域の方々と上手くやって、楽しく過ごして頂きたいものです。なので外からの定住者の方は苦手です」、「移住してくる人達に農業だけでなく地元企業への就業も紹介して、長く次の世代まで定着していってくれる事をすすめていきたい。若い人達が働きたくなる場所を提供する事が大切だと思う」、「子育て世帯の移住の促進」などの意見がみられました。若者の移住・定住は、住宅の問題に限らず、仕事、コミュニティとの付き合い方など、多様な側面を有しているため、町民の感情も様々であることに留意したい課題といえます。

⑤「町営住宅」

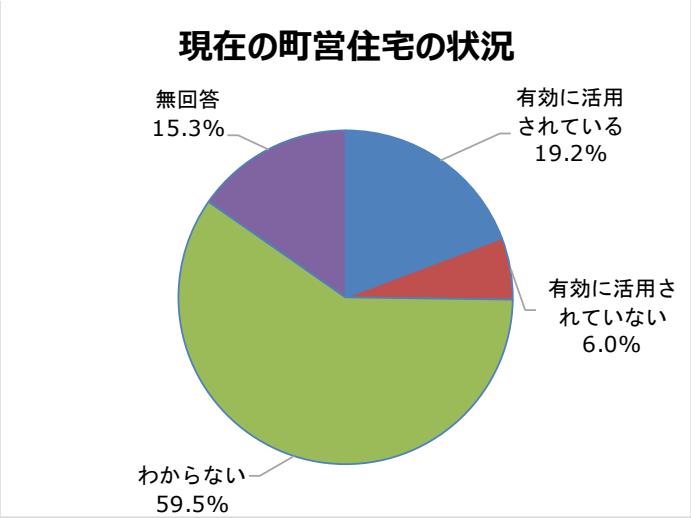
町営住宅のあり方に関するアンケート結果を以下のように集約しました。ただし、白川町民の９割が持家であることに留意しなければなりません。

「３．町営住宅のあり方について質問です。
３－１．現在の町営住宅の状況についてどう考えますか？あてはまるものを１つに○をつけてください。」
「３－２．現在の町営住宅の数についてどう考えますか？あてはまるものを１つに○をつけてください。」

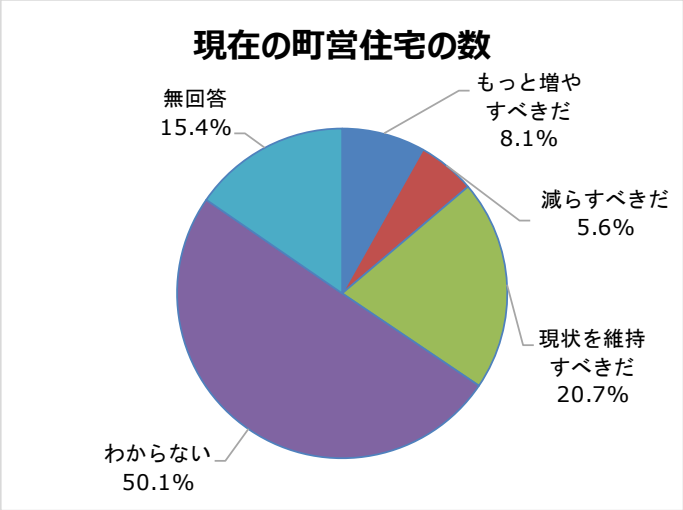
傾向：町営住宅の状況や数について、「有効に活用されている」19.2%、「有効に活用されていない」6.0%、「わからない」59.5%となり、「数をもっと増やすべき」8.1%、「減らすべき」5.6%、「現状維持」20.7%、「わからない」50.1%となりました。両設問とも「わからない」との回答が 5～6 割あり、空き家対策の設問と同様に、町営住宅の状況や数について判断するための情報が町民に伝わっていない可能性も考えられます。町民の９割以上が持家であるため、「わからない」とする回答が最も多く、半数以上を占めているとも考えられます。

一方で、新しい町営住宅に期待することとして、高齢者・子育て世代向けの対策が大切であるとの回答が多く見られ、実際に居住する人たちの属性を重視する傾向にあると思われます。

項目	回答数	%
全体	**3,009**	**100.0%**
有効に活用されている	579	19.2%
有効に活用されていない	180	6.0%
わからない	1,790	59.5%
無回答	460	15.3%



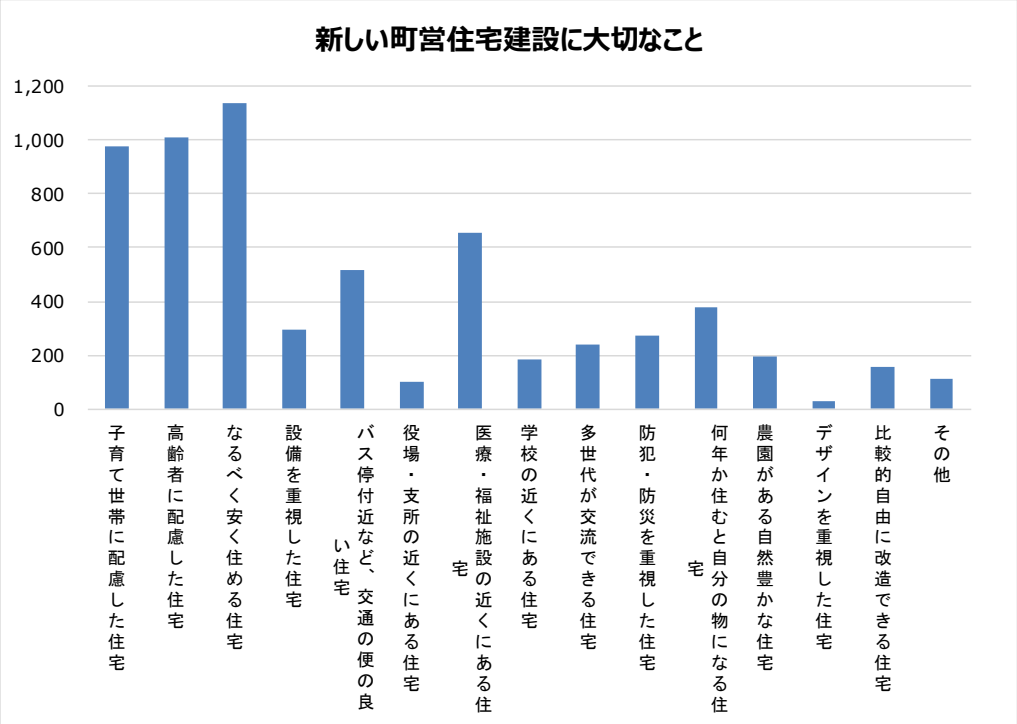
項目	回答数	%
全体	**3,009**	**100.0%**
もっと増やすべきだ	245	8.1%
減らすべきだ	170	5.6%
現状を維持すべきだ	622	20.7%
わからない	1,509	50.1%
無回答	463	15.4%



「３－３．新しい町営住宅を建設するなら、どのようなことが大切だと思いますか？大切だと思うこと３つに○をつけてください。」

傾向：子育て世帯に関連して、「子育て世帯に配慮した住宅」(975)、「医療・福祉施設の近くにある住宅」(655)、「学校の近くにある住宅」(184)、「多世代が交流できる住宅」(237) が新しい町営住宅で大切な項目として回答が多く、町民の子育て世帯へのサポートの意識の高さがうかがえます。

項目	回答数
子育て世帯に配慮した住宅	975
高齢者に配慮した住宅	1,011
なるべく安く住める住宅	1,137
設備を重視した住宅	296
バス停付近など、交通の便の良い住宅	518
役場・支所の近くにある住宅	102
医療・福祉施設の近くにある住宅	655
学校の近くにある住宅	184
多世代が交流できる住宅	237
防犯・防災を重視した住宅	275
何年か住むと自分の物になる住宅	379
農園がある自然豊かな住宅	194
デザインを重視した住宅	31
比較的自由に改造できる住宅	155
その他	110



＜「町営住宅」に関するまとめ＞

「町営住宅」については、白川町民の 9 割が持家であることから、活用状況や数に関する質問は「わからない」が半数を占めており、アンケート結果に配慮すべきであります。「有効活用している」や「現状維持」とする回答が、2 割程度を占めおり、町民は現状の町営住宅でよいとの評価を与えているともいえます。一方で、町営住宅においては、高齢者や子育て世帯をサポートすることが大切であるとの回答が多くみられ、住宅のみならず、様々な環境整備と連動する回答となっています。

自由記述では、「町営住宅の入居…I ターンや U ターンを優先することを規則化しても良いと思う」や「町営住宅を充実させるより、これから増える空き家を有効活用していく事が大事」、「人口が減少する今、新たな町営住宅を造る必要はない」など、若

者の移住・定住や空き家対策、また人口減少による新たな町営住宅の不要論など、他の地域の課題と関連した意見も多くみられました。

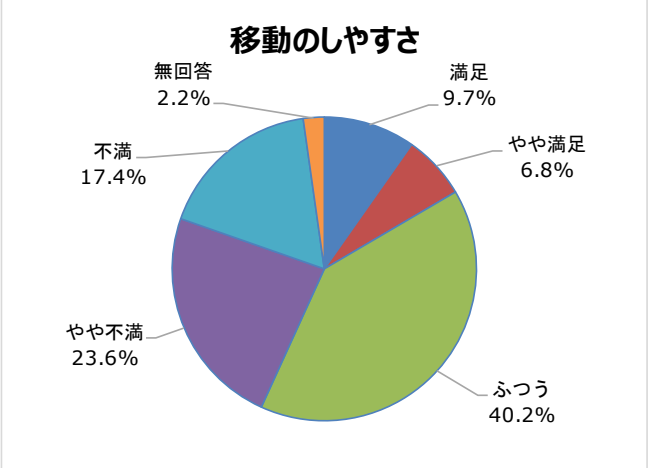
⑥「コンパクトなまちづくり」

白川町における「コンパクトなまちづくり」は、様々な行政機能や人口を一箇所に集中させるような施策を展開していくのではなく、既存の確立された地域コミュニティを維持しつつ、「公共交通の充実」、「ネットワーク通信の充実」、「公民館等の充実」、「行政サービスの充実」と言った施策によっては町全体の効率化を進めていくものと考えています（多極ネットワーク型のコンパクト化）。

以下に、「移動」、「ネットワーク」、「公民館等の公共施設」、「行政サービス」などのキーワードを踏まえて、アンケート結果を集約しました。

「１－３．周辺の住環境の満足度に関する項目についての質問です。
①出かける際の移動のしやすさについてどう思いますか？」
傾向：「不満・やや不満」が、「満足・やや満足」の数値（16.6%）を大きく超えて 41.0%となりました。ただし、「ふつう」と回答した割合が 40.2%と高く、現状に特段不満を持っていない層が多くを占める結果となっています。

項目	回答数	%
全体	**3,009**	**100.0%**
満足	293	9.7%
やや満足	205	6.8%
ふつう	1,211	40.2%
やや不満	709	23.6%
不満	524	17.4%
無回答	67	2.2%



【クロス集計　年齢×移動のしやすさ】

年代別と移動のしやすさを見ると、主に子育て世代となる 20 代から 40 代が「不満・やや不満」の割合が高くなる傾向にあります。20 代は、55.6%（40／72）、30 代は、48.7%（74／152）、40 代は、53.3%（163／306）でした。60 代から 80 代以上については、4 割から 3 割ほどと、子育て世代に比べて比較的低い傾向にあります。これは、それぞれの年代の行動範囲に関連した傾向といえます。

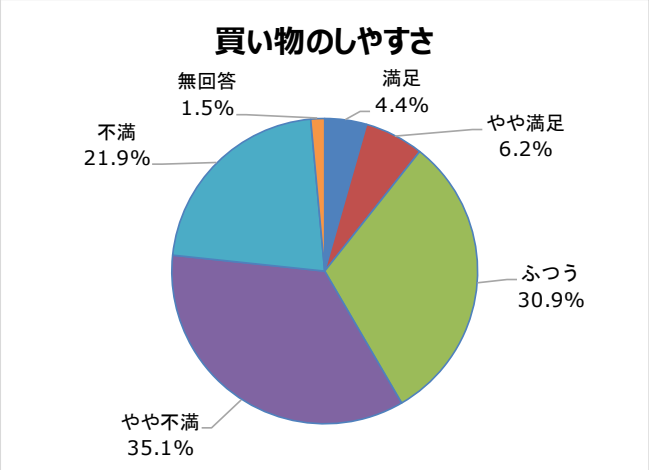
年齢 × 買い物のしやすさ

	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	無回答	合計	満足・やや満足	普通	不満＋やや不満
20代	4	3	20	19	24	2	72	9.7%	27.8%	59.7%
30代	3	13	46	55	34	1	152	10.5%	30.3%	58.6%
40代	10	17	75	130	71	3	306	8.8%	24.5%	65.7%
50代	15	20	135	183	162	5	520	6.7%	26.0%	66.3%
60代	24	49	242	325	161	3	804	9.1%	30.1%	60.4%
70代	35	42	209	186	104	11	587	13.1%	35.6%	49.4%
80歳以上	40	36	177	141	89	13	496	15.3%	35.7%	46.4%
無回答	2	8	27	16	13	6	72	13.9%	37.5%	40.3%
合 計	133	188	931	1,055	658	44	3,009	10.7%	30.9%	56.9%

「１－３．周辺の住環境の満足度に関する項目についての質問です。
③買い物のしやすさについてどう思いますか？」

傾向：「不満・やや不満」が、「満足・やや満足」の数値（10.7%）を大きく超えて 56.9%であり、半数以上の回答者が現在の買い物の環境に不満を抱えていることがわかりました。ただし、「ふつう」と回答した割合が 30.9%と高く、現状に特段不満を持っていない層が約三分の一を占める結果となっています。

項目	回答数	%
全体	**3,009**	**100.0%**
満足	133	4.4%
やや満足	188	6.2%
ふつう	931	30.9%
やや不満	1,055	35.1%
不満	658	21.9%
無回答	44	1.5%



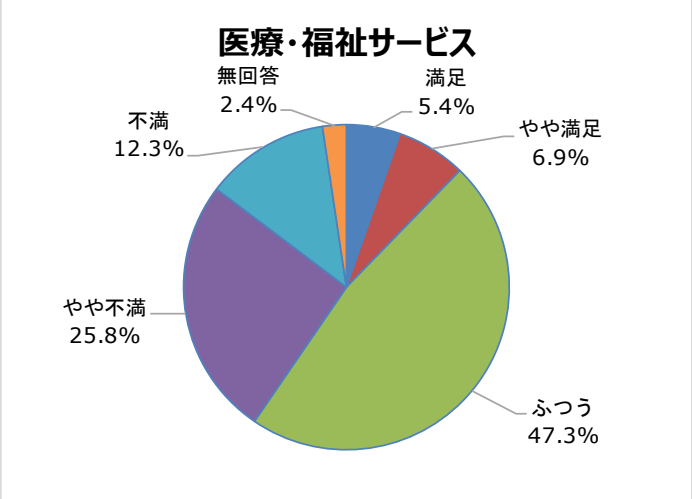
【クロス集計　住んでいる地区×買い物のしやすさ】

「三川地区」在住者の回答が、買い物のしやすさに対して、他地区に比べ最も多く「満足・やや満足」と回答（82／286）しており、地区の買い物環境の違いが明確な意識の差として現れています。

「１－３．周辺の住環境の満足度に関する項目についての質問です。
④医療・福祉サービスの利用のしやすさについてどう思いますか？」

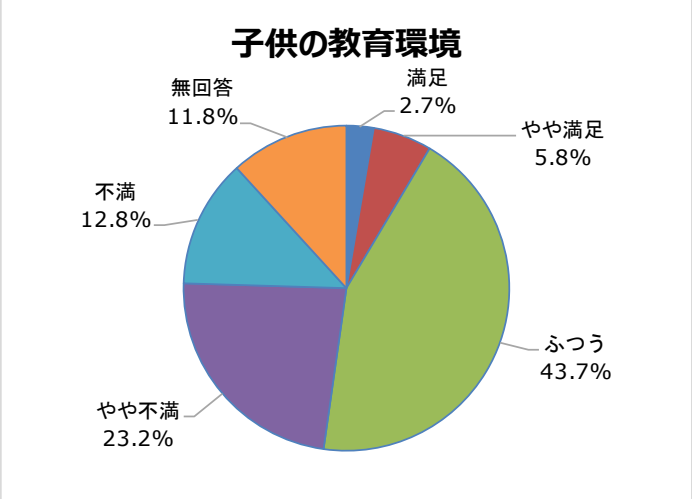
傾向：「不満・やや不満」が、「満足・やや満足」の数値（12.3%）を大きく超えて 38.1%でした。一方で、「ふつう」と回答した割合が 47.3%と高く、現状に特段不満を持っていない層が半数近くの割合を占める結果となりました。

項目	回答数	%
全体	**3,009**	**100.0%**
満足	161	5.4%
やや満足	208	6.9%
ふつう	1,423	47.3%
やや不満	775	25.8%
不満	371	12.3%
無回答	71	2.4%



「１－３．周辺の住環境の満足度に関する項目についての質問です。
⑤子供の教育環境についてどう思いますか？」
傾向：「不満・やや不満」が、「満足・やや満足」の数値（8.5%）を大きく超えて 36.0%となりました。一方で、「ふつう」と回答した割合が 43.7%と高く、現状に特段不満を持っていない層が半数近くの割合を占める結果となっています。

項目	回答数	%
全体	**3,009**	**100.0%**
満足	81	2.7%
やや満足	176	5.8%
ふつう	1,315	43.7%
やや不満	699	23.2%
不満	384	12.8%
無回答	354	11.8%



【クロス集計　年齢×子供の教育環境】
主に子育て世代となる年代別で子供の教育環境の回答を見ると、20 代は「満足・やや満足」は 22.2%（16／72）、「ふつう」は 38.9%（28／72）、「不満・やや不満」は 33.3%（24／72）でした。30 代は「満足・やや満足」は 13.8%（21／152）、「ふつう」は 48.7%

（74／152)、「不満・やや不満」は 37.5%（57／152）となり、40 代は、「満足・やや満足」は 14.1%（43／306)、「ふつう」は 37.6%（115／306)、「不満・やや不満」は 47.1%（144／306）でした。

20 代から 40 代においては、「満足・やや満足」は他の世代比べ比較的高い割合である一方で、「不満・やや不満」の割合も同様に他の世代と比べ、3 割から半数近い高い割合を示していることから、実際に学校等へ通う子供を持つだろうと思われる世代において、進学も含め不満や不安を持っていることが推測できます。

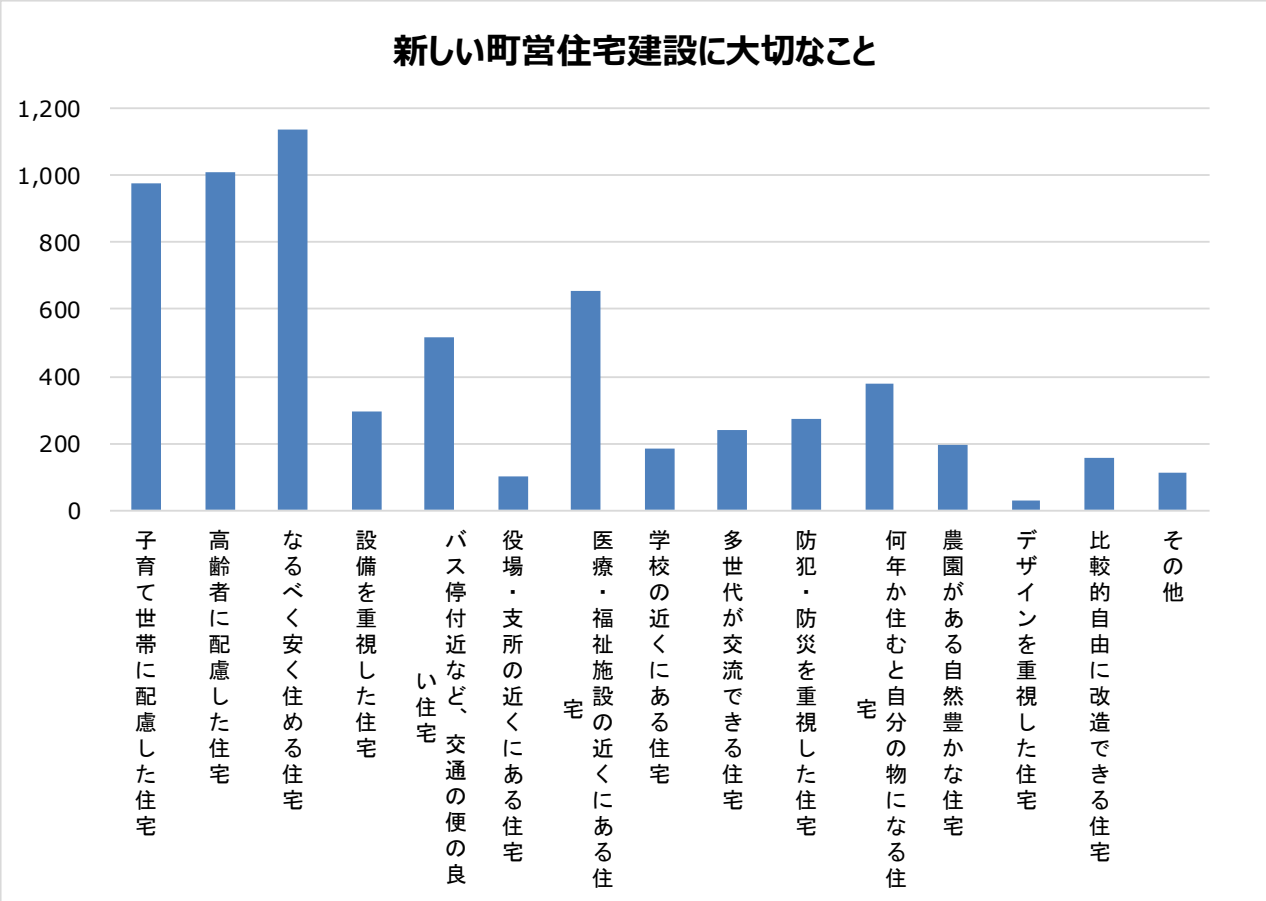
年齢 × 子供の教育環境

	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	無回答	**合計**	満足･やや満足	普通	不満＋やや不満
20代	6	10	28	13	11	4	72	22.2%	38.9%	33.3%
30代	6	15	74	35	22	0	152	13.8%	48.7%	37.5%
40代	13	30	115	104	40	4	306	14.1%	37.6%	47.1%
50代	13	31	220	138	105	13	520	8.5%	42.3%	46.7%
60代	14	37	376	221	113	43	804	6.3%	46.8%	41.5%
70代	13	26	278	102	56	112	587	6.6%	47.4%	26.9%
80歳以上	15	25	194	71	35	156	496	8.1%	39.1%	21.4%
無回答	1	2	30	15	2	22	72	4.2%	41.7%	23.6%
合 計	81	176	1,315	699	384	354	3,009	8.5%	43.7%	36.0%

「３－３．新しい町営住宅を建設するなら、どのようなことが大切だと思いますか？大切だと思うこと３つに○をつけてください。」

傾向：「バス停付近など、交通の便の良い住宅」や「役場・支所の近くにある住宅」、「医療・福祉施設の近くにある住宅」など生活するうえで必要となる施設が身近に欲しいとの回答が多くあり、町民の行政サービス等の効率化に対するニーズがうかがえます。

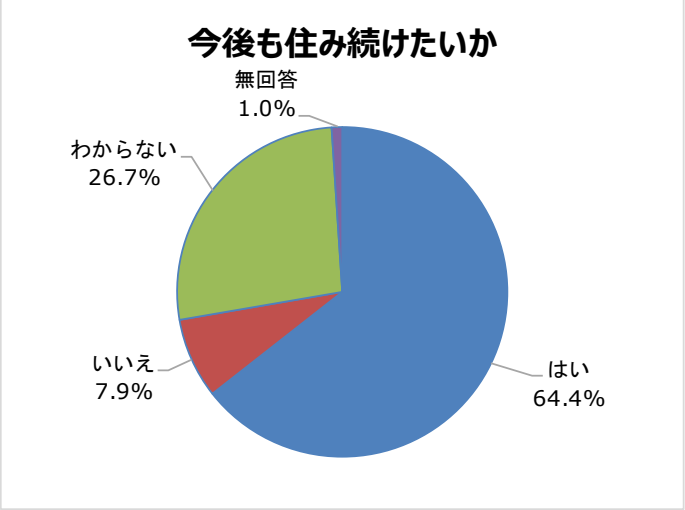
項目	回答数
子育て世帯に配慮した住宅	975
高齢者に配慮した住宅	1,011
なるべく安く住める住宅	1,137
設備を重視した住宅	296
バス停付近など、交通の便の良い住宅	518
役場・支所の近くにある住宅	102
医療・福祉施設の近くにある住宅	655
学校の近くにある住宅	184
多世代が交流できる住宅	237
防犯・防災を重視した住宅	275
何年か住むと自分の物になる住宅	379
農園がある自然豊かな住宅	194
デザインを重視した住宅	31
比較的自由に改造できる住宅	155
その他	110



「１－４－１．現在のお住まいの家に今後も住み続けたいと思いますか？」

傾向：現在の住宅に住み続けたいとの回答が 6 割以上であることから、物理的な居住地の集約化は、難しい状況であると思われます。

項目	回答数	%
全体	**3,009**	**100.0%**
はい	1,938	64.4%
いいえ	237	7.9%
わからない	803	26.7%
無回答	31	1.0%



＜「コンパクトなまちづくり」に関するまとめ＞

白川町におけるコンパクトなまちづくり（多極ネットワーク型のコンパクト化）において、町民は移動（交通：バス路線）や学校、病院等を住宅近隣にあることを求めていることから、潜在的にコンパクトなまちづくりのニーズがあると思われます。一方で、多くの町民は現在の住宅に住み続けたいとする傾向が強く、物理的な居住地の集約化には多くの課題をはらんでいると思われます。

自由記述では、「駅、スーパー、病院に近い所に住めるようにしないといけない（コンパクトシティ）」や「町内の面積が広い割に、住居が点在している。コンパクトシティも検討した方がよいと思います」、「将来、車の運転が出来なくなった時、スーパーや病院等が遠く、生活が困難になる地域が多い。難しいことだけれど、スーパーや病院等が利用しやすい場所に移って住めると良いと思う」など、町の様々な施設が効率的に、便利に利用できるような環境整備が求められていることがわかります。